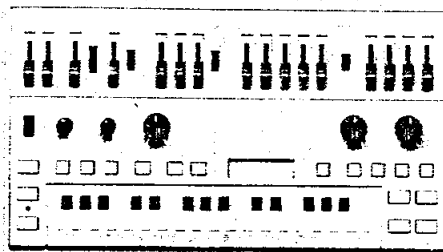


 Roland
MicroComposer
MC-202

オーナーズ・マニュアル



特 長

- MC-202は、モノフォニック・シンセサイザー（1系統）を搭載した2チャンネルのマイクロ・コンポーザーです。

■マイクロ・コンポーザー部

- 数値によって、あるいは音符の長さのキーを使って自由に音楽データを作成する（書き込む）ことができます。
- メトロノームにあわせて鍵盤演奏を行なうだけで書き込むこともできます。
- アクセントやボルタメント等の要素もデータとして書き込むことができます。
- シンセサイザー(1V/Oct.)を1台接続するだけで簡単に2声の音楽を演奏させることができます。
- テープ・インターフェイス機能を内蔵。作成したデータを普通のカセット・テープに保存しておくことができます。
- 2チャンネル合計最大2,600音（1小節8音で約150小節）のデータが記憶できます。また、液晶ディスプレイにより、メモリー残量を音数で知ることができます。
- 液晶ディスプレイを採用。書き込んだ様々な情報（データ）やテンポ値etc.を視覚的にとらえることができます。
- メモリー保持のために必要な電源以外はすべてOFFになるパワー・セーブ機能を採用。
- メトロノーム機能を採用。操作が確実に行なわれたかどうかを音で知らせます。

■シンセサイザー部

- 基本性能の高い1V/Oct.方式のシンセサイザーです。
- VCOレンジ、サブ・オシレーター、トランスポーズの切換えにより、9オクターブの音域をカバーします。
- 切れのよい24dbのカットオフ・スロープを持ったVCFを装備。

■接続端子、その他

- 同期演奏用DIN端子を3個（IN×1, OUT×2）装備。同じ規格のDIN端子を装備した他のシーケンサーやリズムマシンと接続して同期演奏が行なえます。
- CV, GATE端子（IN×1, OUT×2）を装備。外部キーボード（1V/Oct.）を接続してデータを書き込んだり、また逆に外部シンセサイザーを鳴らすことができます。
- テープ・シンク機能を装備。多重録音をする際、シンク信号をテープに録音しておけば、後でこの信号にMC-202を同期させて新たなパートを重ねていくことができます。
- DC/AC2電源方式（ACアダプター（BOSS PSA-100）別売）。バッテリーがなくなりかけている事を示すバッテリー表示機能も装備。

目次

お使いになる前に..... 6	1. 接続のしかた
■電源について	2. 操作
■設置場所について	■4拍子以外の曲を書き込む場合
■クリーニングについて	D. 音の高さはキー操作で、リズムについては拍子をとることで
■液晶パネルについて	■4拍子以外の曲を書き込む場合
■電池交換と取扱上の注意	
・大切なデータを消さないために	
・電池の交換時期	
・電池交換のしかた	
・その他	
① マイクロ・コンポーザー MC-202について..... 8	
② 各部の名称と接続..... 9	④ 書き込み(応用).....24
A. 各部の名称	A. 2チャンネルの書き込み, 演奏
B. 接続のしかた	1. 接続のしかた
	2. チューニングのしかた
	3. チャンネルの切替と書き込み, 演奏
	B. アクセント, ボルタメントの書き込み
	1. アクセント, ボルタメントについて
	2. 書き込みかた
	■アクセント効果の切替えかた
	C. 書き込み時の機能
	1. データの送りかた, 戻しかた
	■データの戻しかた
	■データの早送り, 早戻しのしかた
	2. 音域の移動のさせかた
	D. データを間違えた時の書き直しかた
	1. 音の高さの書き直し
	2. ステップ・タイム, ゲート・タイムの書き直し
	■ステップ・キー, ゲート・キーでの書き直し
	■数字での書き直し
	3. 音のデリート, インサートのしかた
	■音のデリートのしかた
	■音のインサートのしかた
③ 書き込み(基本).....11	⑤ 小節線(バー)を利用した機能.....35
A. シンセサイザーを働かせる	A. 小節の指定のしかた等
B. キー操作での書き込み	1. 小節番号の見かた
1. 音の高さの書き込み	2. 小節単位でのデータの送りかた, 戻しかた
2. ステップ・タイム, ゲート・タイムの書き直しについて	3. 小節の指定のしかた
3. ステップ・キー, ゲート・キーでの書き直し	B. 指定小節からの演奏, 書き直し
■休符の書き込みかた	
■付点音符(休符)の書き込みかた	
4. 演奏	
5. 数字キーでステップ・タイムを書き直すには	
6. エディットの状態で, 1小節目の1拍目にする方法	
7. ゲート・タイムを数字キーで書き直すには	
▶書き込み例	
8. 小節線の書き込みかた	
C. 鍵盤の演奏によるデータ作成	

- 1. 指定小節からの演奏
- 2. 指定小節からの書き直し
 - キー操作での書き直し
 - 鍵盤演奏での書き直し、拍子をとての書き直し
- 3. 小節単位のテリートのしかた
- 4. 小節線の書き直し
 - 小節線の追加
 - 小節線の削除
 - 小節線の位置の変更
- C. コピーのしかた

⑥ その他の機能 41

- A. テンポ値の表示
- B. メモリー・チェック
 - 表示の見かた
 - メモリー残量について
- C. ステップ・チェック
 - ステップ数に間違いがある時
- D. \sharp/\flat 表示の切替
- E. メトロノーム音のON/OFF切替

⑦ データの保存 44

- A. データの保存について
- B. 接続のしかた
- C. 操作方法
 - 1. データの保存
 - 2. 保存の確認
 - 3. 保存したデータの呼び出し
 - ファイル番号の利用のしかた
- D. 使用するテープについて
 - テープの保管等
- E. パワー・セーブ機能について

⑧ 応用的な使いかた 49

- A. MC-202とシステム構成例
- B. リア・パネル部の名称
- C. シンセサイザーとの接続

- 1. 外部キーボードによるコントロール
 - 接続のしかた
 - 書き込み、演奏時の注意
 - キャリブレーションのしかた
- 2. 2チャンネルの演奏
 - 接続のしかた
 - データを書き込む時の注意
 - 演奏時の注意
- 3. 参考

D. 外部機器との同期演奏

- 1. MC-202+シーケンサー
 - MC-202+MC-4
 - MC-202+CSQ-600
 - MC-202+TB-303
- 2. MC-202+リズム・マシーン
 - MC-202+TR-808, 606, CR-8000
- 3. 複数台のコントロール
- 4. MC-202+MC-202+

E. テープ・シンク(多重録音)

- 接続のしかた
- シンクロ信号の録音のしかた
- シンクロ信号による演奏(多重録音)

音域表 59

故障とお考えになる前に 60

主な仕様 61

オプション 63

■サービス・ステーション

お使いになる前に

■電源について

- この製品は、乾電池/ACアダプターのいずれでも使用できる2電源方式を採用しています。乾電池で使用する場合には、電池交換が必要となります。
- ACアダプターを使用する場合は、必ず専用のBOSS PSA-100をお使い下さい。また、電源電圧が90V以下、または110Vを超える所では、電圧調節器で100Vにしてご使用下さい。
- 必ずアダプターの接続を終えてから、電源スイッチをオンにして下さい。電源をオンにしたままでアダプターの接続を行なうと、誤動作や故障の原因となりますので注意して下さい。
- 外国でお使いになる場合は、お使いになる地域の電圧にあったACアダプター(PSA-120, 220, 240)をご用意下さい。

■設置場所について

- 本体の近くにネオン、蛍光灯などがある場合、雑音の原因となりますので、位置を変えて下さい。
- 温度、湿度の高い所やホコリの多い場所での使用は、故障の原因となりますから避けて下さい。
- 直射日光のあたる場所や閉めきった車の中などに長時間放置しないで下さい。キャビネットが変形することがあります。

■クリーニングについて

- 本体が汚れた時は、中性洗剤で拭き取った後、柔らかい布で乾拭きして下さい。
- *シンナー類の使用は避けて下さい。

■液晶パネルについて

- 液晶パネルは、角度によって見づらくなる場合があります。
- パネル面を強く押したり叩いたりしないで下さい。

■電池交換と取扱上の注意

〈大切なデータを消さないために〉

- MC-202のメモリーは揮発性(電源をOFFにしたり、電池が消耗するとデータが消えてしまう)です。大切なデータを消してしまわないよう十分注意し、データ作成後は必ずデータの保存(P45)を行なってから電源をOFFにするようにして下さい。
- 特に乾電池で使用する場合は、乾電池の状態に注意し、消耗しかけている場合などは新しい電池に交換してから使用するようにして下さい。
- 電池交換は、データがすでに保存されている事を確認してから行なって下さい。
- ACアダプターを使用する場合でも、乾電池は入れておいて下さい。不慮の事故等でアダプターがはずれた時でも乾電池動作に切替わるので、データを消してしまう心配がありません。
(アダプターがACコンセントからはずれた場合は、データは消えてしまいます)

〈電池の交換時期〉

- 電池の寿命は、一般的な電池を使用した場合、約8時間です(使用状態、電池の種類によって異なります)。
- 乾電池動作を行なっている時、電池が消耗してくると、ディスプレイ右側のバッテリー

—表示が点滅します。点滅を始めてから約1時間程度で正常な動作が行えなくなりますので、電池を交換して下さい。



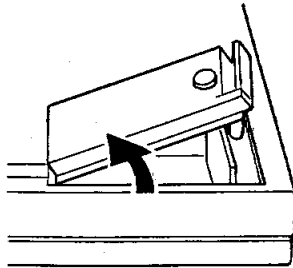
＜電池交換のしかた＞

●単2電池を6本用意して下さい。

①電源スイッチをOFFにします。ACアダプターを使用している場合は、コードも抜いて下さい。

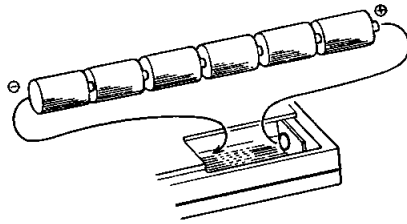


②本体裏面の電池カバーをはずします。



③電池ケースから電池を取り出します。

④新しい電池を極性（+、-）を間違えないようにして電池ケースに入れます。



⑤電池カバーを取り付けます。

＜その他＞

●消耗した電池を入れた状態で放置すると液もれや故障の原因となります。長時間使用しない時は、電池を抜いておいて下さい。

●電池動作の場合、電源を切り忘れて放置することは、絶対に避けて下さい。

① マイクロ・コンポーザー MC-202について

MC-202は、モノフォニック・シンセサイザー（1系統）を内蔵した2チャンネルのマイクロ・コンポーザーです。従って、モノフォニック・シンセサイザー（SH-09, SH-2, SH-101, システム100Mなど1V/Oct.のもの）が他に1台あれば、簡単にシンセサイザー2重奏ができます。

その他、多重録音機器（マルチ・レコーダー）との使用で、シンセサイザー音楽を制作することもできます。

MC-202に音楽データを書き込むには、次の3種類の方法があります。

- ①キー操作のみで書き込む（演奏の必要はない）
- ②鍵盤の演奏で書き込む
- ③音の高さはキー操作で、リズム（タイミング）については拍子をとることで

いずれの方法で書き込んでも、MC-202に書き込まれるデータ（音の高さ、鳴らしたい時間の情報等）は同じものになります。

MC-202では、基本的に音符の持っている音の要素（情報）を次の3つに分けて考えます。

- ①音の高さ（PITCHと言う）
鍵盤のキーを演奏順に押す。

- ②音符の長さ（ステップ・タイムと言う）
数字に直して考える。

- ③実際に鳴らしたい音の長さ（ゲート・タイムと言う）

②と同じく、数字に直して考える。

②と③の考え方ですが、実際の音楽の演奏では、同じ長さの音符（たとえば4分音符など）が並んでいたとしても、必ずしも同じ長さで演奏されるとは限りません。ある音符は長目に、ある音符は短か目と言うことです。

また、実際に鳴っている時間もスタッカートやレガートなどの違いがあります。これらの要素を細かく調節するために考えられた方法です。下の図④を見て考えて下さい。

まとめて考えると⑧のようになります。

MC-202は、シンセサイザー（外部に接続されたシンセサイザーも含め）の演奏ができる状態をプレイ（PLAY）、データを書き込む状態をエディット（EDIT）と言います。

また、2声部をチャンネル1（CH-1）とチャンネル2（CH-2）に分けてエディットします。

以上を理解した上で、実際の操作に移りましょう。

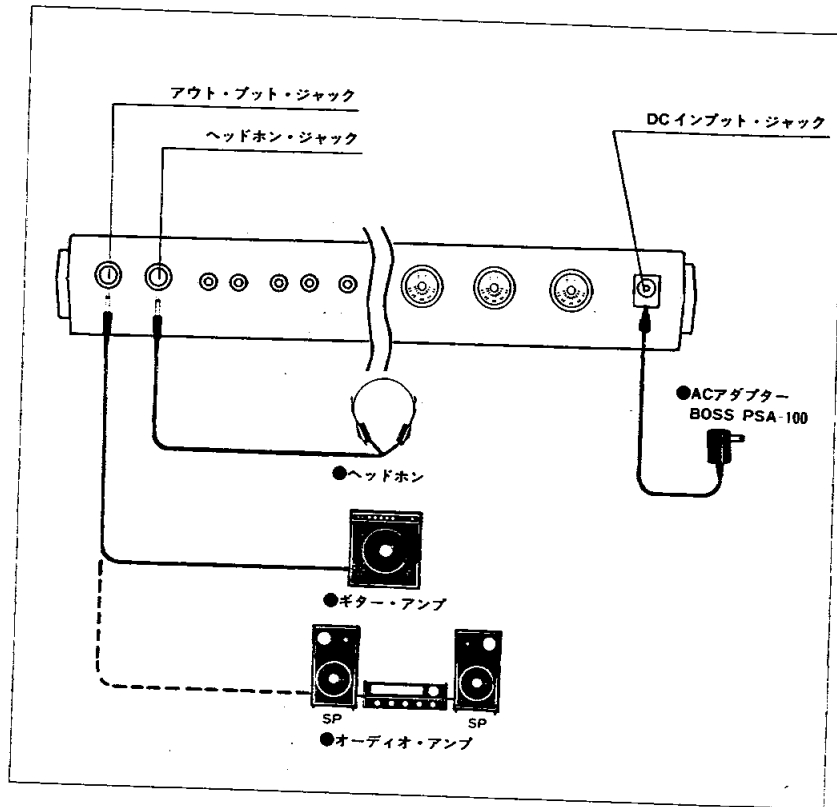
④ (インテンポの場合)

(ウイナ・ワルツの場合)

⑧

音の高さ	3C	3D	3E	3F	3G	-----
ステップ・タイム	48	48	24	24	48	-----
ゲート・タイム	46	46	22	22	46	-----

B.接続のしかた



ヘッドホン・ジャック

- ヘッドホンを接続した場合でも、アウトブットからの信号は出力されます。
- また、接続するヘッドホンは、必ずステレオ・ヘッドホン（適合インピーダンス $8\Omega \sim 30\Omega$ ）をご使用下さい。
- *操作中に鳴るメトロノーム音は、このジャックからは出力されません。

DCインプット・ジャック

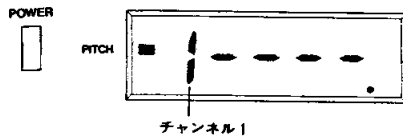
- ACアダプターを使用する場合は、このジャックに接続します。
- ACアダプターは、専用のBOSS PSA-100をご使用下さい（他社のアダプターを使用すると故障が起こる場合がありますので絶対に使用しないで下さい）。

③書き込み(基本)

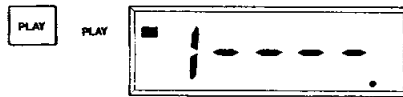
A.シンセサイザーを働かせる

音を聞かずにデータを書き込むこともできますが、データの書き違えを発見しやすくするためには、シンセサイザーの音で確認しながら進めるのが簡単です。まずシンセサイザーの音が出せるようにシンセサイザーを調節します。

①CH-1のエディット(PITCHの書き込み)



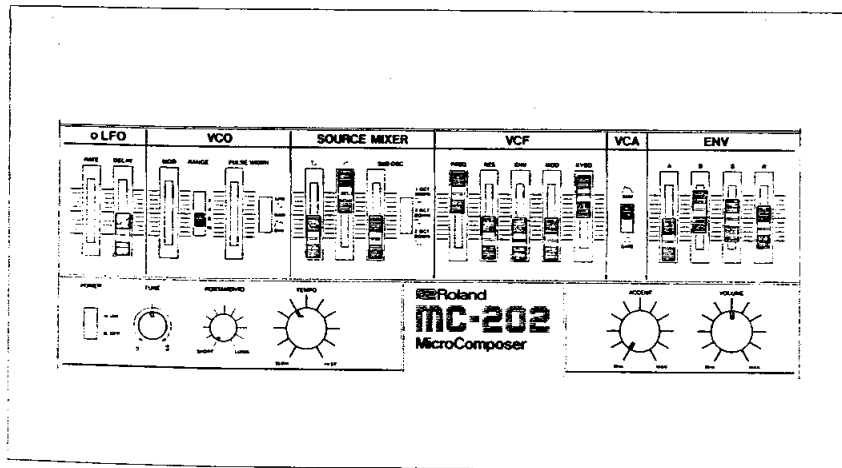
①CH-1のエディット(PITCHの書き込み)



②シンセサイザーの演奏ができる(モードを切替える時にメトロノームの音)

これでシンセサイザーの音作りができます。下の例はエディットしやすい音です。好み

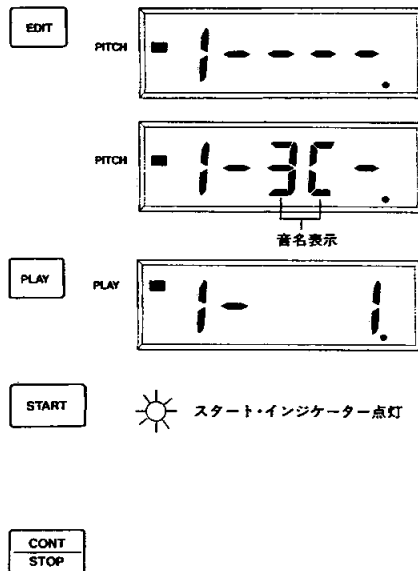
に応じて変化させて下さい。



B. キー操作での書き込み

まず、音の高さから書き込みます。休止符がある場合は、その直前の音と同じ音を書き込んでおきます。

1 音の高さの書き込み



①音の高さのデータを書き込む状態

- パネル鍵盤で楽譜の順番にキーを押していく。
- 押されたキーの音が順番に鳴ると同時にディスプレイには音名が表示される（中央Cは3C、音名の右肩にマークが出れば#）。

②演奏できる状態

③自動演奏スタート

- 1回の演奏で自動的にストップ。休止符のつもりの音も演奏される。
- 演奏のテンポはテンポ・ツマミで調節。

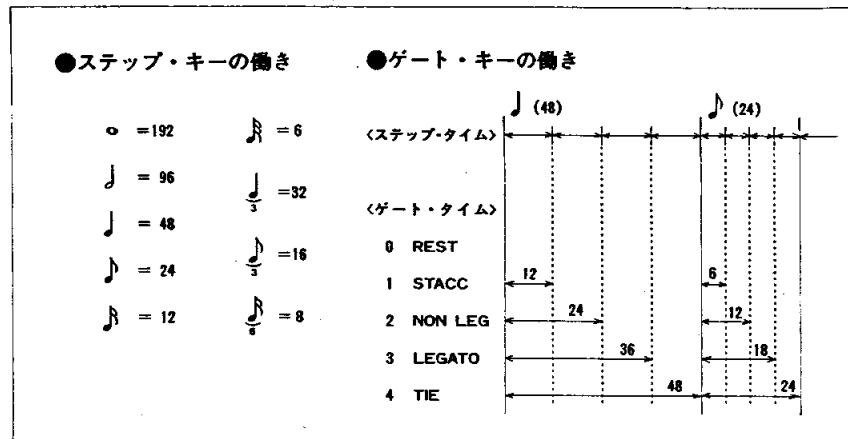
④演奏の途中でもストップできる。

音の順番の確認ができたなら、次に音の長さを書き直します。自動演奏はストップさせます。

ステップ・キーでの書き直しは、同時にゲート・キーを使ってゲート・タイムも書き直すことができますが、数字キーを使った場合は、ステップ・タイムのみの書き直しになり

ますので、後でゲート・タイムを書き直します。

ステップ・キーとゲート・キーの働きは次の図のとおりです。



3 ステップ・キー、ゲート・キーでの書き直し

第1小節、1音目から書き直すことになり
ますが、すべての音符は♪=24のデータにな

っていますので、楽譜上の♪は書き直さなく
て良いことになります。

■書き直したい場合

(ステップ・キー)

STEP (ステップ・キー♪を押した場合)

3 LEGATO

STEP (ゲート・キー 3 LEGATOを押した場合)

①ステップ・タイムの仮指定

②ゲート・タイムの仮指定



③ステップ・タイムとゲート・タイムの書き直し。

●次の音のステップ・タイムが表示される。

エンター・キーが押されるまでは書き直したことはありません。従って、ステップ・タイムとゲート・タイムの仮指定は何度でも指定し直すことができます。

ゲート・キーの指定が、1音1音違う場合は、1音毎に指定しますが、ゲート・タイムが前の音と同じものを指定したい時は、ゲート・キーを押さずにエンター・キーだけを押すと自動的に前のゲート・タイムと同じものが指定されます。

■付点音符、付点休符の書き込みかた

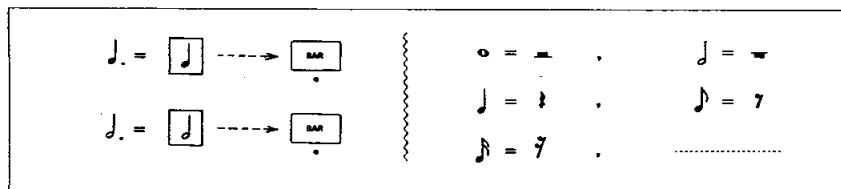
付点音符、付点休符の書き込みは、[ENTER]

キーを押す代わりに[BAR]キーを押して書き込みます。

たとえば♪ならば♪キーを押し、[ENTER]キーを押さずに[BAR]キーを押すとステップ・タイムは36に書き込まれます(図参照)。

■休符の書き込みかた

休止符の場合は、必要な休止符と同じ長さのステップ・キーを選び、ゲート・キーは[O REST]を選びます。休止符と音符の関係は次のとおりです。



■書き直す必要がない場合

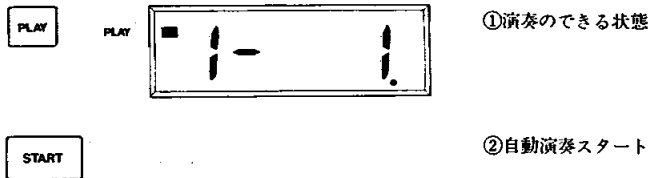


①1回押すとパスして、その次の音のステップ・タイムを表示。

以上の方法で、ステップ・タイムとゲート・タイムのデータを完成させます。データが

完成したら、モードをプレイに切替えてスタートします。

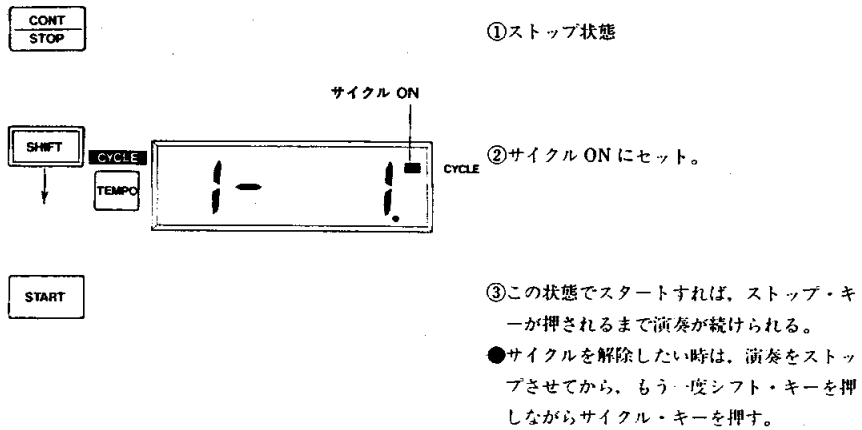
4 演奏



何度も繰り返して演奏させる場合には、プレイ・モードでサイクルにします。ここでシフト・キーを使いますが、シフト・キーとは1つのボタンに2つの働きをさせ

るためのものです。MC-202では、シフト・キーを押しながら他のキーを押すと、そのキーの上に白地で書かれた働きをさせることができます。

■サイクル演奏のしかた



5 数字キーでステップ・タイムを書き直すには

ステップ・キーのかわりに数字キーを使います。例えば、ステップ・タイムを48にした場合は $\boxed{4}$ 、 $\boxed{8}$ と押します。間違えて押した場合は、 $\boxed{0}$ を3回押してから正しい数字を入れ直します。数字キーは押すごとにメトロノーム音が出ます。

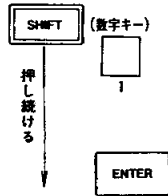
エンター・キーを押すまでは、ステップ・キーで書き直す方法と同じく仮設定ですから正しいステップ・タイムが表示されたらエンター・キーを押して次のステップ・タイムの書き直しに移ります。書き直す必要がない場合は、ステップ・キーでの方法と同じく、

FWD キーで次に進めます。

STEP ステップ・キーで書き直す方法では、ゲート・タイムも指定しましたが、数字キーを使う方法では、ステップ・タイムのみを次々に書き直します。この操作が終了したら、ゲート・タイムの書き直しに移ります。

ステップ・タイムを書き直し終わった状態では、次に何が書き込まれるかという待機状態になっています。従って、1小節目の1拍目に直さないとゲート・タイムを書き直していくことができません。この操作は次のように行ないます。

6 エディットの状態で、1小節目の1拍目にする方法

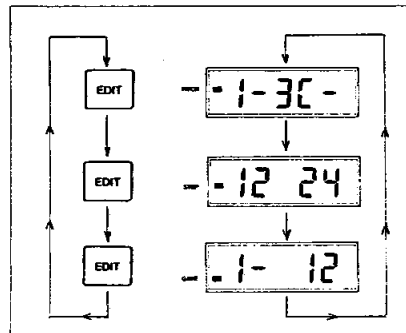


シフト・キーは、エンター・キーを押して離すまで押し続ける必要があります。つまりエンター・キーを離してからシフト・キーを離す訳です。

7 ゲート・タイムを数字キーで書き直すには

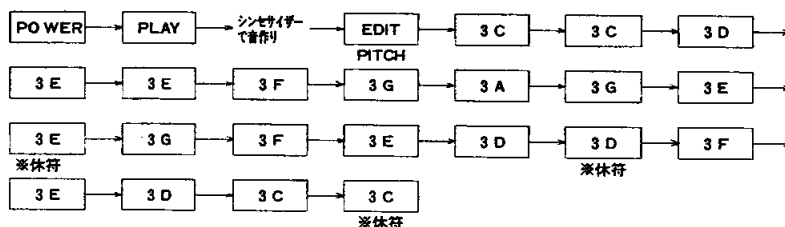
エディットの状態は、エディット・キーを押すたびに図のように入れ替ります。

ゲートのモードに切替えた状態でゲート・タイムの書き直しができます。この書き直し方は、ステップ・タイムの書き直し方とまったく同じです。



▶書き込み例

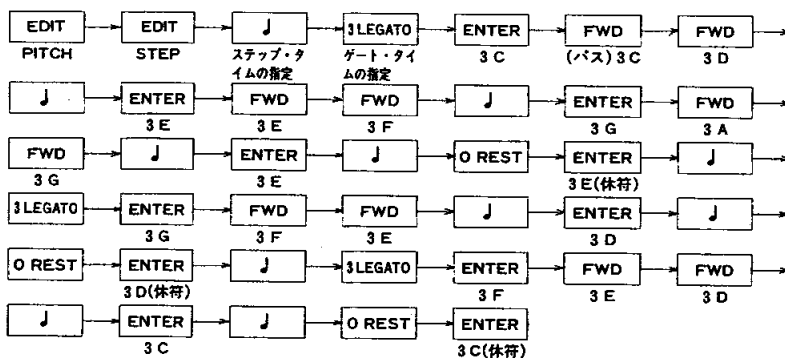
次の楽譜を書き込んでみましょう。



以上で音の高さが書き込まれました。次に確認をします。



次にステップ・タイムとゲート・タイムを書き直します。



これで完成です。モードをプレイに切替え、スタート・キーを押して演奏させてみましょう。

▶注

- 3 C, 3 D等は鍵盤の音の高さを表わす。
- 3 C→中央C(P59音域表参照)

以上でキー操作によるデータの書き込みは終了したことになりますが、MC-202には楽譜上の小節に対する情報が何も入っていません。

つまり、書き込み例の楽譜は下の楽譜のように書き込んだことになります。

実際に演奏される曲は、何の変りもないのですが、データの書き直しをする場合に、途中の小節から演奏させたり、小節単位で前

に進めたり、バックさせたりすることができません。

また、小節線が書き込まれていると、プレイしている時に何小節目を演奏しているかがディスプレイに表示されます。

従って、小節線をMC-202に記憶させておく方が便利です。次に小節線(バーと言う)の書き込み方を説明します。



8 小節線の書き込みかた

小節線の書き込みかたには、2種類の方法があります。

①音の高さのデータを書き込む時に書き込む。

②音の高さのデータを書き込み終ってから小節線を書き込む。

①の方法は、音符を順番に書き込む神経と同時に、小節線を書き込む神経も使わなければならないので、あまりおすすめできません。

②の方法が簡単です。

■①の方法

各小節の最後の音の高さを書き込んだ次に **BAR** キーを押して、次の小節の音の書き込

みに移る。

■②の方法

音の高さの書き込み(B-1 P12)が済んだら **FWD STEP** キーを押して音を順に進めます。小節の最後の音が鳴ったら、次に **BAR** キーを押します。メトロノーム音が鳴って、小

節線が書き込まれます。さらに **FWD STEP** キーを押して次の小節の最後の音が鳴ったら、1小節目と同じように **BAR** キーを押します。最後の小節の終りには小節線は書き込みません。

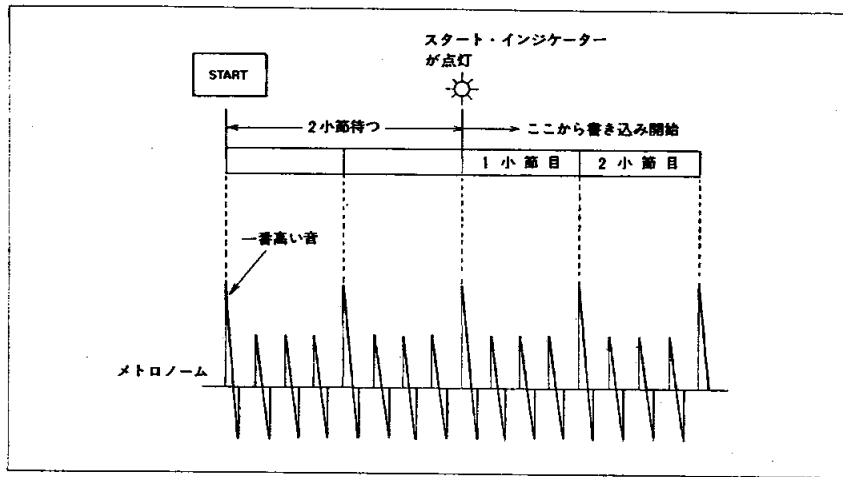
C.鍵盤の演奏によるデータ作成

メトロノームにあわせて演奏するだけで、データを書き込むことができます。演奏した通りにデータが書き込まれるので、鍵盤演奏に自信のある方におすすめします。

また、パネル鍵盤では演奏しにくいので、外部キーボード(1V/Oct.のもの)を接続して

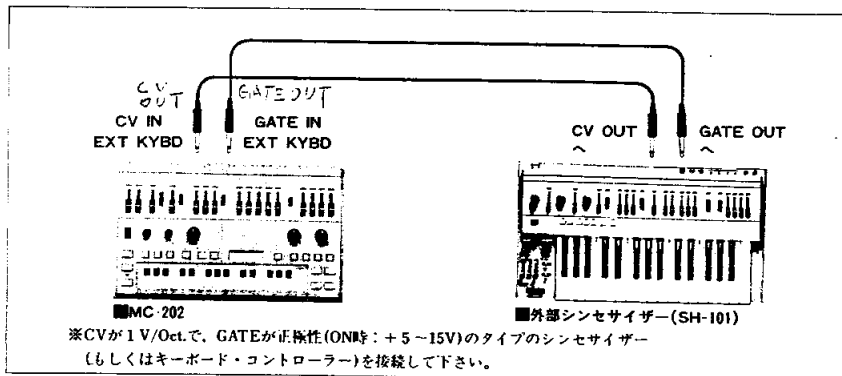
演奏するとよいでしょう。

メトロノームは図のように鳴ります。最初の2小節はテンポをとるためのガイドなので、メトロノームを2小節聞いてから演奏を始

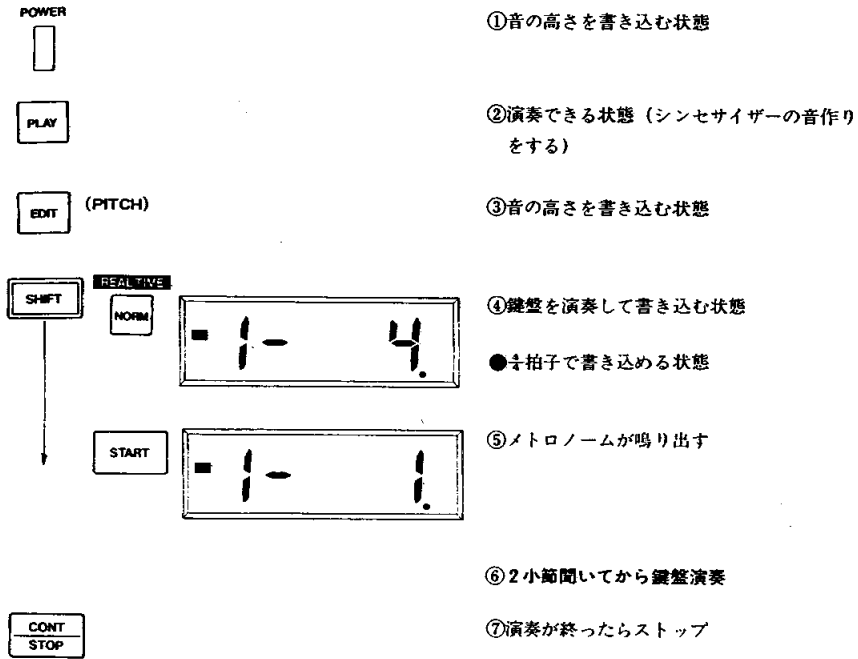


1 接続のしかた

図のように接続します。



2 操作



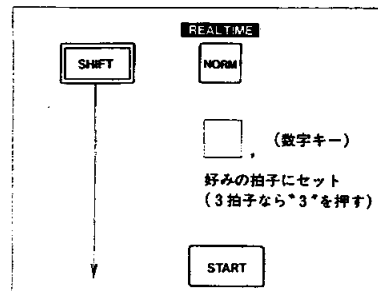
テンポはテンポ・ツマミで調節します。
 押さえたキーの音の高さがPITCHとして、
 またキーを押すタイミング(間隔)がステップ
 ・タイムとして、さらにキーを押さえている時
 間がゲート・タイムとして書き込まれます。
 データの書き直しをする時は、最初から演
 奏し直します。

■ 4拍子以外の曲を書き込む場合

メトロノームの鳴りかたを変えることが
 できます。これにより、3拍子や変拍子などの
 曲も書き込んでいくことができます。

操作④の時、図のように数字キーで好みの

拍子にセットします。その後、スタート・キ
 ーを押せば、その拍子でメトロノームが鳴り
 ます。

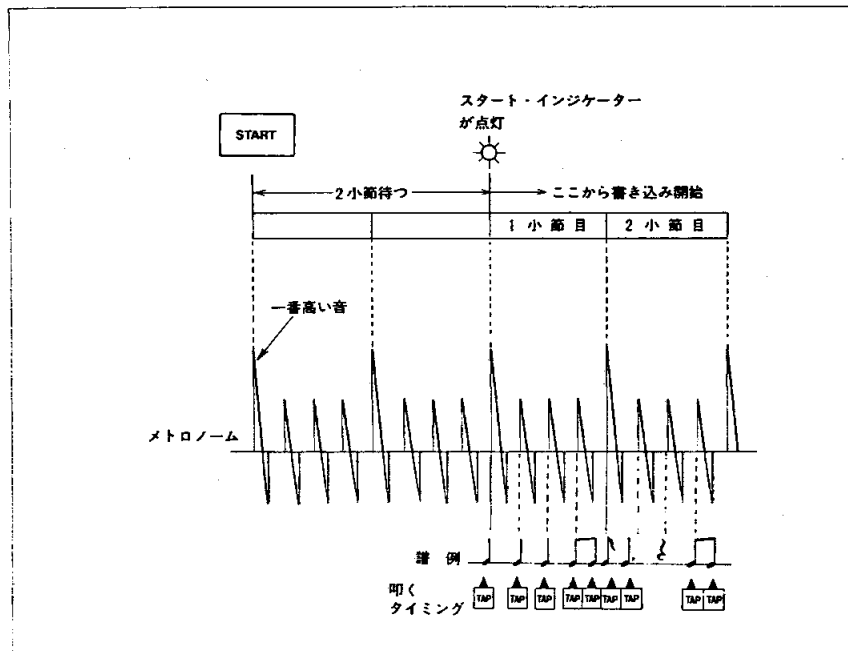


D.音の高さはキー操作で、リズムについては拍子をとることで

すべての音の高さをキー操作で書き込んだ後、メトロノームにあわせてタイミングよくタップ・キーを叩いてリズム（ステップ・タイムとゲート・タイム）を書き込みます。メトロノームは図のように鳴ります。タッ

プ・キーを叩くタイミングとの関係をよく見てください。

リズムを書き込む時は、「鍵盤演奏による書き込み」と同様、メトロノームを2小節聞いてから書き込みます。



POWER



①音の高さを書き込める状態

PLAY



②演奏できる状態（シンセサイザーの音作りをする）

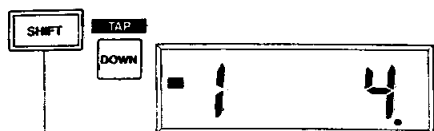
EDIT

(PITCH)



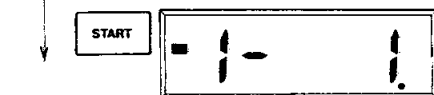
③音の高さを書き込む状態

④キー操作ですべての音の高さを順に書き込む



⑤タップ・キーを叩いてリズムを書き込む状態

●4拍子で書き込める状態



⑥メトロノームが鳴り出す

⑦2小節聞いてからタップ・キーをタイミングよく叩き始める

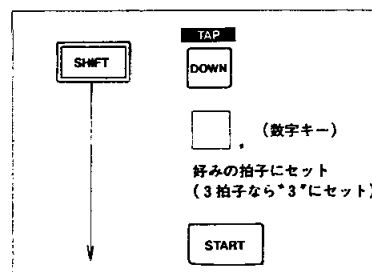
⑧最後の音を叩き終わったらストップ



テンポはテンポ・ツマミで調節します。
 タップ・キーが叩かれるたびに音（書き込んであるPITCH）が鳴り、そのタイミングでステップ・タイム、ゲート・タイムが書き込まれます。
 データの書き直しをする時は、最初からやり直します。

■4 拍子以外の曲を書き込む場合

“鍵盤演奏による書き込み”と同じようにメトロノームの鳴りかたを変えます。
 ③の時、図のようにテン・キーで好みの拍子にセットします。その後、スタート・キーを押せば、その拍子でメトロノームが鳴ります。



④書き込み(応用)

A. 2チャンネルの書き込み, 演奏

*③書き込み(基本)*ではCH-1のみに書き込みましたが、CH-2にもデータを書き込めば、簡単に2重奏させることができます。

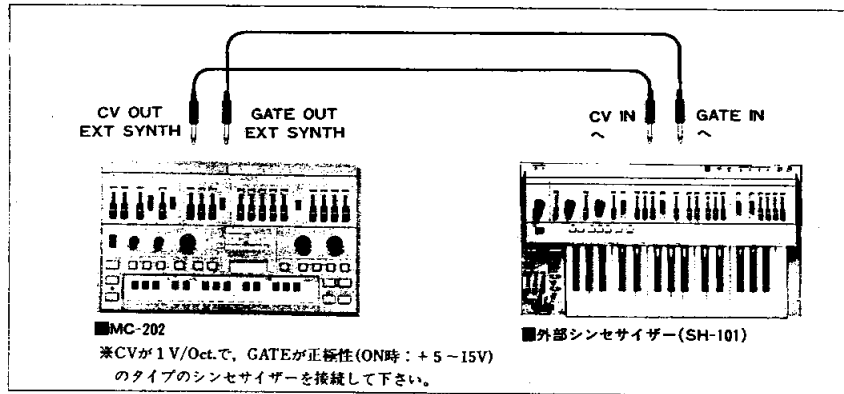
この場合は、MC-202にシンセサイザー(1V/Oct.のもの)を1台接続しておく必要があります。シンセサイザーを接続した時は、MC-202のシンセサイザーとチューニングを

行ないます。

また、CH-2に2重奏用のデータの代わりに違う曲のデータを入れておけば、データを交互に呼び出して、2つの違う曲を演奏させることもできます。この場合は、外部シンセサイザーは必要ありません。

1 接続のしかた

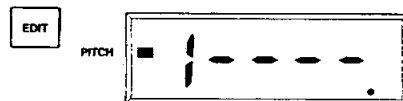
図のように接続します。



2 チューニングのしかた

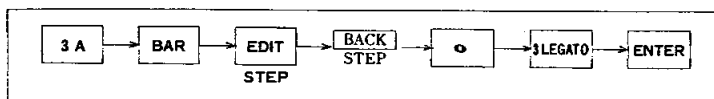
①接続を確認

チューニング用のデータをMC-202に書き込みます。

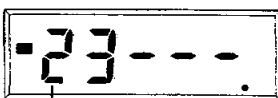


②CH-1をエディットできる状態 (音の高さを書き込める状態)

③次の手順でデータを書き込む



CHANNEL



チャンネル 2 を表示

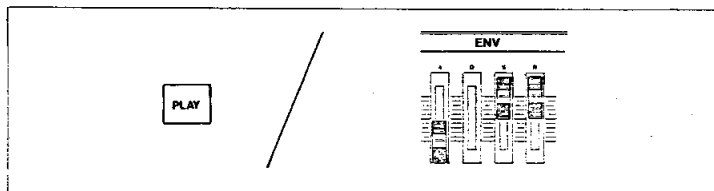
EDIT
PITCH

PLAY

④CH-2 をエディットできる状態

⑤音の高さを書き込める状態にセットしたら
操作③で書き込んだデータ(同じデータ)を
書き込む。

⑥演奏できる状態にセットし、図のように
ENVの各ツマミをなるべく長い音が出る位
置にセットする。



SHIFT
CYCLE
TEMPO

⑦サイクル機能をONにセット

START

⑧演奏スタート

●チューニング用のデータ(2CH分)が演奏
される。

⑨2つの音の高さをMC-202及び外部シンセ
サイザーのチューニング・ツマミで合わせ
る。



■以上で調整は終了です。

チューニング用のデータは3 A(440Hz)に
してありますが、他の音でもかまいません。
音叉やチューナーを使う場合は、書き込んだ

データを演奏させながら1台ずつチューニン
グします。

3 チャンネルの切替と書き込み、演奏について

チャンネル・キーを押すと、図のように切替ります。

チャンネルはMC-202がどのモードの時でも切替えることができます。ただし自動演奏中には切替えられません。

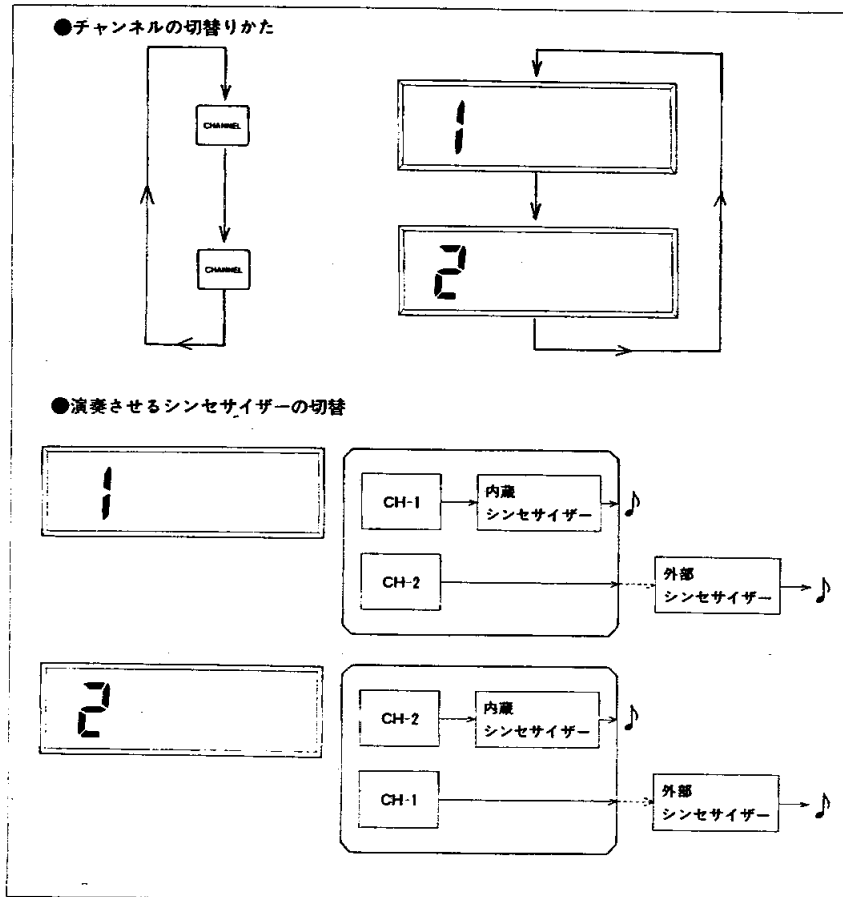
書き込みをする時は、このようにチャンネルを切替えてから行ないます。CH-1と同じようにエディットできます。

鍵盤演奏による書き込み (P20) や拍子をとりにながらの書き込み (P22) 時には、書き

込んである方のチャンネルの演奏を聞きながら書き込めます。

演奏させる時はチャンネルを切替える必要はありませんが、チャンネルを切替えば図のように演奏させるシンセサイザーの切替えができます。

*チャンネル1と2で書き込まれている小節線がずれていると、ディスプレイの小節番号表示が正しく行なわれないので注意して下さい。



B.アクセント、ポルタメントの書き込み

MC-202では、さらにアクセント (ACC) やポルタメント (PORTA) などの効果もデータとして書き込んでおくことができます。

1 アクセント、ポルタメントについて

■アクセント (ACC)

図のように強調したい音符に書き込んでいきます。

のついた2つの音符のうち、後の方の音符に書き込みます。

■ポルタメント (PORTA)

図のように、ある音から次の音になめらかに移行させたい場合に書き込みます。

ポルタメントの場合は、ポルタメント記号

※外部シンセサイザーを接続している場合、ポルタメントは外部シンセサイザーに働きますが、アクセントの働きはしません (アクセントは内蔵のシンセサイザーのみに働きます)。

The image shows two musical staves in treble clef with a common time signature (C). The top staff, labeled '●アクセント', shows four quarter notes. The second and third notes have 'ACC' written below them with a vertical line pointing to the note. The bottom staff, labeled '●ポルタメント', shows four quarter notes. The first and second notes are connected by a slur, with 'PORTA' written below the slur. The third and fourth notes are also connected by a slur, with 'PORTA' written below the slur. Both staves end with three dots indicating continuation.

2 書き込みかた

アクセントもポルタメントも書き込みかたはほとんど同じです。書き込みかたには2つの方法があります。

- ①ステップ・タイムを書き込む時に書き込む。
- ②すべての書き込みが終わってから書き込む。

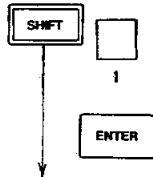
■①の方法

ステップ・タイムを仮指定したら、エンター・キーを押す前にアクセント・キー (ポルタメントの場合はポルタメント・キー) を押します。

■②の方法

すべての書き込みが済んだら、次のようにします。

EDIT (STEP)



①アクセント、ポルタメントが書き込める状態 (ステップ・タイムが書き込める状態)。

②1小節目の1音目に直す。

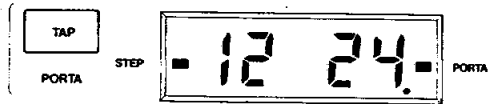
FWD
STEP

③ **FWD STEP** キーを押して、アクセント (またはポルタメント) を書き込みたい音のすぐ前の音までパスさせる。



④アクセント (またはポルタメント) キーを押して書き込む。

●ディスプレイに表示が出る。



⑤③と④を繰り返して書き込む。

書き込みが済んだらプレイ・モードにセットして演奏させてみましょう。この時、アクセント・ツマミ、ポルタメント・ツマミを動かして、それぞれの効果を確認して下さい。書き込みを間違えた時は、もう一度アクセ

ント (またはポルタメント) キーを押せば解除されます。

*両方のチャンネルにポルタメントを書き込んだ時でも、効果の調節は共通となります (別々に調節を行なう事はできません)。

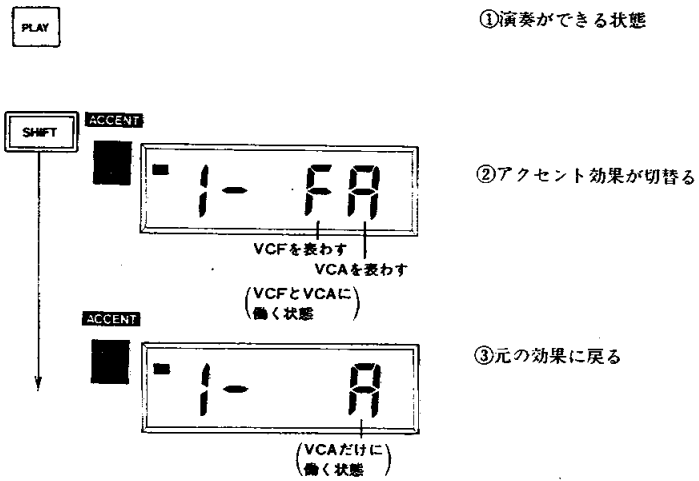
3 アクセント効果の切替えかた

アクセントの効果を変更することができます。

通常、アクセントはVCA*だけに働きますが、これをVCFにも働くように切替えること

ができる訳です。

※詳しくは、別冊「MC-202のシンセサイザー」を参照下さい。



⑤小節線(バー)を利用した機能

小節線を書き込んでおくと、次のようなことが行なえます。

- 指定した小節からの演奏、書き直し
- 小節単位でデータを送る、戻す
- データのコピー

- 小節単位でのデリート
- etc.

※小節線の書き込みかたはP19を参照して下さい。

A.小節の指定のしかた等

1 小節番号の見かた

[SHIFT]キーを押せば、いつでも小節番号を知ることができます(自動演奏中は除く)。

■プレイ時

自動演奏中は、小節番号が順に切替っていきます。ストップ時は、ストップしている小節の番号を表示します。

■エディット時

鍵盤演奏による書き込み、拍子をとっての書き込みでは、メトロノームにあわせて小節番号が順に切替っていきます。

キー操作による書き込み時には小節番号は表示されません。

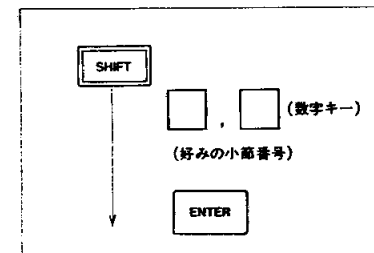
2 小節単位でのデータの送りかた、戻しかた

[FWD]キーを押すと1小節前進、[BACK]キーを押すと1小節バックさせることができます。エディット中に押した時は、キーを押して

いる間小節番号が表示され、キーを離すとその小節の1音目のデータが表示されます。

3 小節の指定のしかた

図の操作を行えば、いつでも必要な小節を呼び出すことができます。



B.指定小節からの演奏、書き直し

1 指定小節からの演奏

プレイ・モードで小節を指定してから [CONT] / [STOP] キーを押せば、指定した小節から演奏させることができます。

2 指定小節からの書き直し

■キー操作での書き直し

エディットの時、小節を指定すれば、その小節の1音目から書き直しをしていくことができます(ディスプレイに、指定した小節の1音目のデータが表示される)。

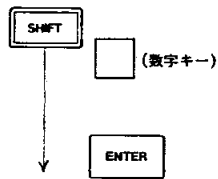
鍵盤演奏での書き込み、拍子をとっての書き込みの場合にも、小節を指定して、その小節から書き直ししていくことができます。

■“鍵盤演奏での書き直し”、“拍子をとっての書き直し”

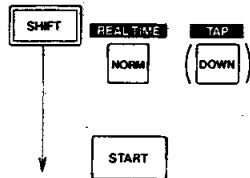
“キー操作での書き直し”では1音ずつ書き直せましたが、“鍵盤演奏での書き直し”、“拍子をとっての書き直し”では、指定した小節からデータの最後までをすべて書き直します。

EDIT (PITCH)

①音の高さを書き直す状態



②小節を指定



③“鍵盤を演奏して書き込む状態”または“タップ・キーを叩いてリズムを書き込む状態”

④書き直し

CONT
STOP

⑤ストップ

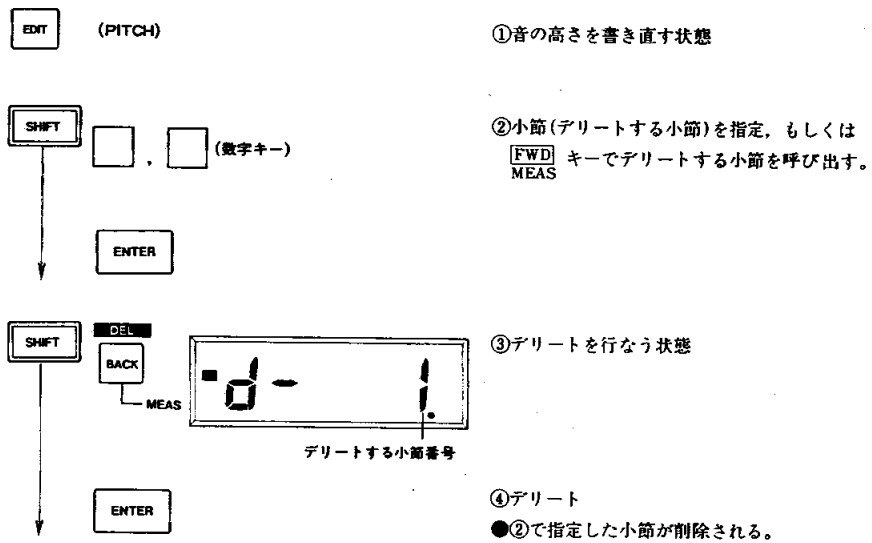
小節番号は指定した小節から順にカウントしていきます。

鍵盤演奏で書き直す場合、指定した小節以

後のデータは消えてしまうので注意して下さい(新たに書き込む形になります)。

3 小節単位のデリートのしかた

小節単位でデータをデリートすることができます。



操作④を繰り返せば、小節を順々にデリートすることができます。

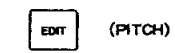
4 小節線の書き直し

小節線を追加したい、削除したい、あるいは小節線の位置を変更したい時は、次のようになります。

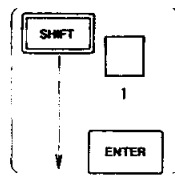
■小節線の追加

新たに小節線を書き込めばよい訳ですから、
*小節線の書き込みかた(P19)*に従って必要な個所に書き込みます。

■小節線の削除



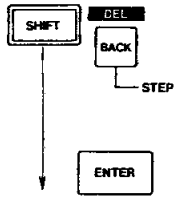
①音の高さを書き直せる状態



②必要があれば1小節目の1音目に直す。



③ **FWD STEP** キーを押して、削除したい小節線の2つ前の音までパスさせる。
●削除する小節線のすぐ前の音のデータがディスプレイに表示される。



④削除を行なう状態

⑤削除
●小節線と小節線のすぐ前の音が削除される。

小節線を削除した場合は、必ず小節線の前の音も同時に削除されるので注意して下さい。
従って、小節線を削除した時は、*音のインサートのしかた(P34)*に従って、元の位置に削除された音をインサートする必要があります。

ます。

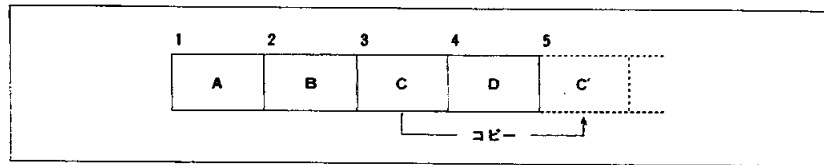
■小節線の位置の変更

*小節線の追加*と*小節線の削除*の2つの方法を使えば、簡単に位置の変更が行なえます。

C.コピーのしかた

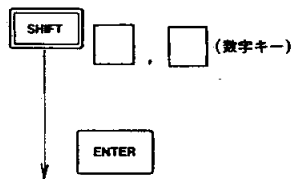
すでに書き込まれているデータを、小節単位でコピーすることができます。
たとえば、4小節のデータが書き込まれて

いる時、3小節目を指定してコピーを行なうと、データの最後（5小節目）に3小節目のデータがコピーされます。(図参照)。

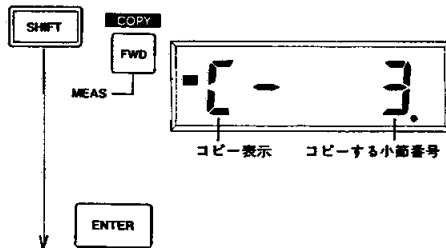


EDIT (PITCH)

①音の高さを書き込める状態



②小節の指定 (P 35) に従って、コピーする小節を指定する。



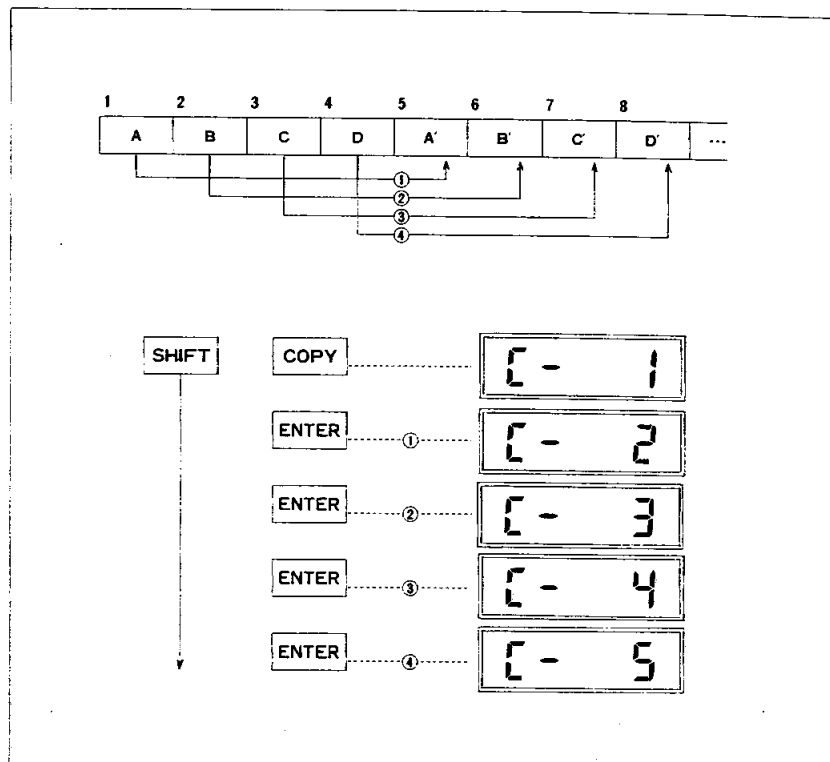
③コピーできる状態

④コピー

●指定した(ディスプレイに表示されている)小節のデータが、書き込まれているデータの一番最後にコピーされる。

操作④を繰り返せば、小節単位で順々にコピーしていくことができます(図参照)。
 コピーを行なうと、音の高さ、ステップ・

タイム、ゲート・タイムのすべてがコピーされます。



⑥その他の機能

書き込みや演奏時に役立つ様々な機能が用意されています。

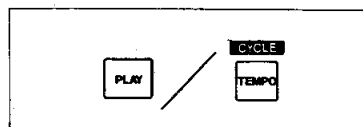
以下に説明する機能は、すべてプレイ・モードの自動演奏ストップ時に操作を行ないます。

A. テンポ値の表示

テンポ・キーを押すと、ディスプレイにテンポ値を表示させることができます。

※キーを押さえてから正確な値を読みとるまで1～2秒かかります。

ードの自動演奏ストップ時に操作を行ないます。



B. メモリー・チェック

メモリー残量を音数で知ることができます。

図のように操作を行なうと、1～2秒してディスプレイにメモリー残量が表示されます。

動作が多少緩慢になります。このような場合は、切替ったことを確認してから、次の操作に移って下さい。

■表示の見かた

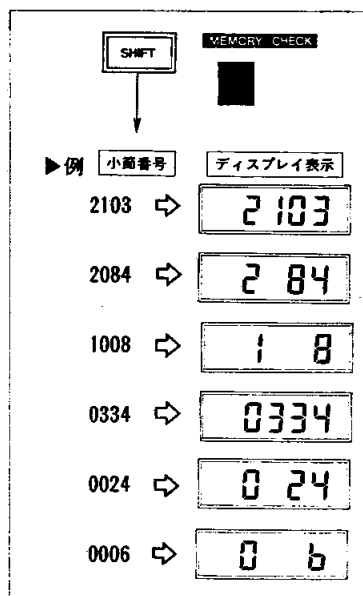
通常4桁の数字で表示されます。ただし10と100の位が0になった場合は、右の例のように表示されます。

■メモリー残量について

記憶できる音数は両チャンネルあわせて約2,600音(最大)です。これは1チャンネルあたり1小節8音として約160小節記憶できるということです。小節線は3本で1音分のデータを消費します。

メモリー残量がなくなると、それ以上書き込めません(キーを押すとメトロノーム音が連続して鳴る)。ただし、鍵盤演奏による書き込みでは、メモリーの許容量を越えて書き込まれてしまうので注意が必要です(この場合はデータが壊れてしまいます)。従ってこの場合は、必ず約2,600音以内で終らせて下さい。

また、データを大量に書き込んだ場合、モードやチャンネルを切替えた時など、切替る

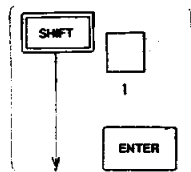


C. ステップ・チェック

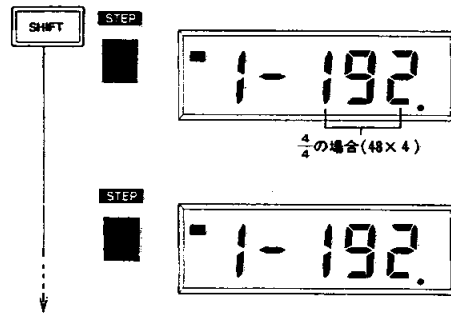
1小節のトータルステップ・タイム（ステップ数）を知ることができます。

たとえば、手の曲を書き込んである場合、1拍（♩）のステップ・タイムは48なので、

1小節では192になります。このトータルのステップ数をチェックしていけば、ステップ数が足りない（あるいは多い）場合などによる「演奏のずれ」を防ぐことができます。



① 1小節目からチェックしていく時は、1小節目に直す。

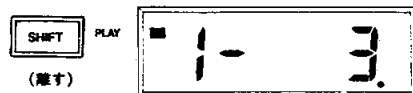


② 1小節目のトータルのステップ数が表示される。

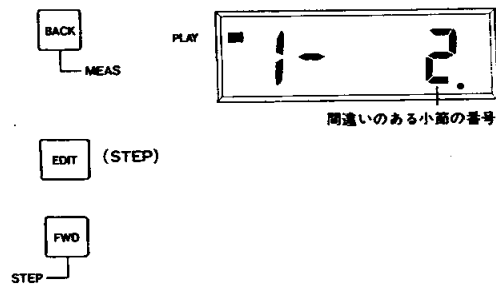
③ 2小節目のトータルのステップ数が表示される。

このように操作を行えば、順々にチェックしていくことができます（ステップ・チェック・キーを押すと1小節前進する訳です）。

■ステップ数に間違いがある時
チェックの途中で間違いを発見したら、次のようにします。



① シフト・キーを離す。



② [BACK] キーを押して1小節戻す。
MEAS

●現在表示されている小節に間違いがある。

③ステップ・タイムを書き直せる状態にし、

[FWD] キーを押してデータをバスさせながら
STEP
間違いのある個所を探す。

④*ステップ・タイムの書き直し(P14)* に従って書き直す。

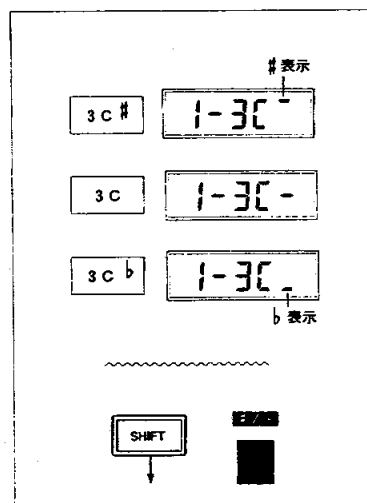
D. #/b 表示の切替

鍵盤の黒鍵を押すと図のように#の表示が出ますが、この表示をbの表示に切替えることができます。

書き込む譜面にあわせて表示を切替えれば譜面と対応させる場合に便利でしょう。

図のように操作を行ってから、パネル鍵盤の黒鍵を押すとbの表示が出ます。

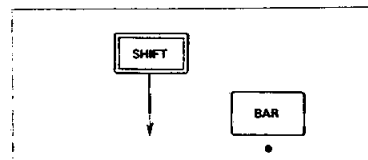
元の表示に戻す時は、図の操作をもう一度行ないます。



E. メトロノーム音のON/OFF切替

メトロノーム機能をOFFにすることができます。操作中のメトロノーム音が必要なければ、図の操作に従ってOFFにして下さい。

ONにしたい時は図の操作をもう一度行ないます。



7 データの保存

A. データの保存について

書き込んだデータは、テープ・レコーダー（カセット・レコーダーなど）を用いて普通の録音テープに録音（保存）しておくことができます。

電源をOFFにする前に、必ずデータを保存するようにして下さい。

データ保存に関する操作は、次の3つです。

●データの保存（セーブ）

書き込んだデータをカセットに保存する作

業です。

●保存の確認（ベリファイ）

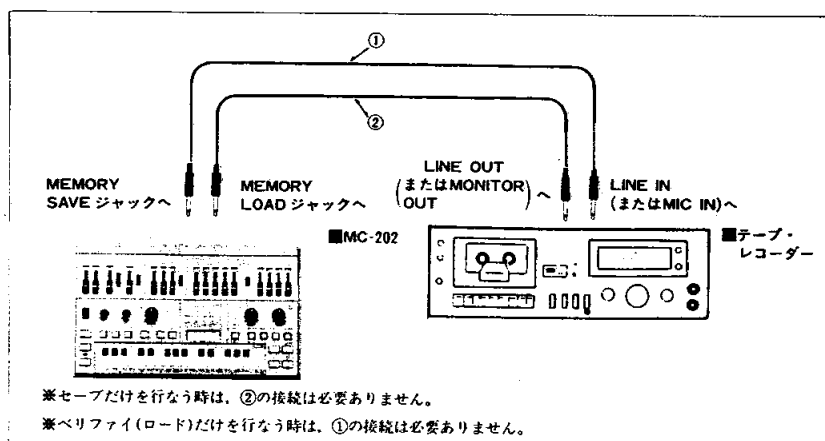
保存が正しく行なわれたかどうかを確認する作業です。

●保存したデータの呼び出し（ロード）

テープに保存されたデータをMC-202のメモリーに戻す作業です。

B. 接続のしかた

MC-202とテープ・レコーダーを図のように接続します。



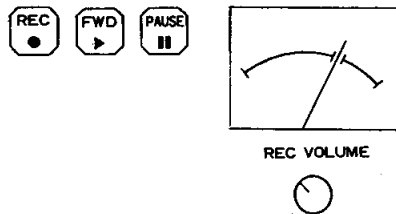
C. 操作方法

それぞれの操作は、すべてプレイ・モードの自動演奏ストップ状態で行ないます。

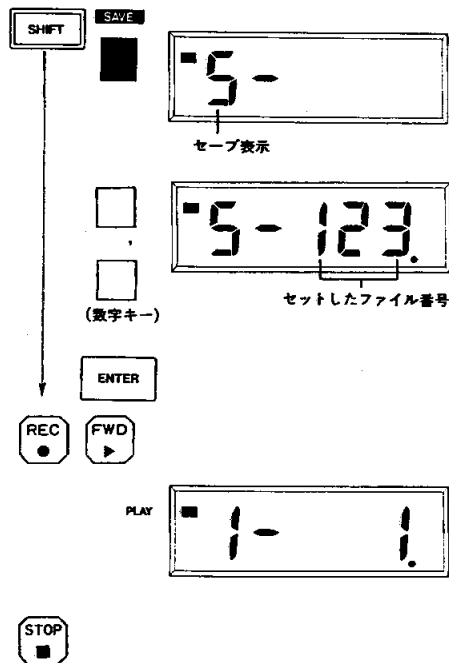
1 データの保存

データを保存する場合、ファイル番号をつけておくと、後で必要なデータを呼び出す時に大変便利です。

ファイル番号は数字キーでセットします。0～999までの番号をセットすることができます。



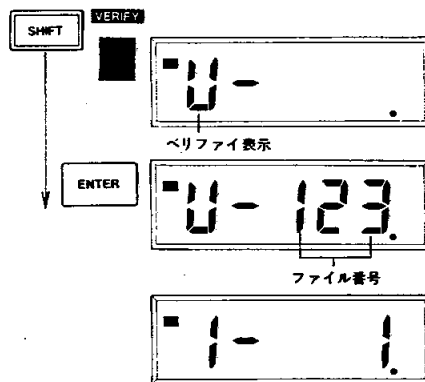
- ①テープ・レコーダーを録音待機状態にセットする。
- 録音レベルを調節できるテープ・レコーダーを使用している時は、MC-202から出力されているパイロット信号(ビーという音)が0 VU程度になるようにボリュームを調節する。



- ②保存を行なう状態
- ③ファイル番号をセット
- ④エンター・キーを押し、続けてテープ・レコーダーを録音状態にする。
- エンター・キーを押すとパイロット信号が高い音に変わり、約7秒後、データの転送(ガーという音)が開始される。
- データの転送が終了するとメトロノーム音が鳴り、ディスプレイが元の状態に戻って再びパイロット信号が鳴る。
- ⑤テープ・レコーダーをストップさせる。

2 保存の確認

データの保存をしたら、必ずこの操作を行なって下さい。



①テープ・レコーダーの出力レベルを調節した後、再生状態にします。

●必ずデータの頭のパイロット信号の部分からスタートさせて下さい。

●パイロット信号が鳴っている間に、次の2つの操作を行ないます。

②確認を行なう状態

③確認

●テープからのデータ転送が始まると、ディスプレイにファイル番号が表示される。

●正しく保存されていることが確認されるとメトロノーム音が鳴り、ディスプレイが元の状態に戻る。

④テープ・レコーダーをストップさせる。

操作はパイロット信号が鳴っている間に行なって下さい。データの転送が始まってからあるいはパイロット信号の鳴る前に行なうとエラー（メトロノーム音が連続して鳴る）となります。

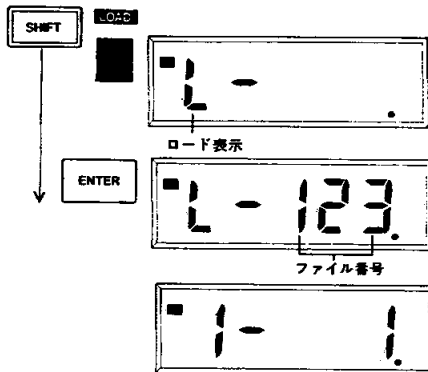
再生レベルが低いとエラーになる場合があります。エラーとなった場合はレベルを上げ

て再び保存の確認を行なって下さい。

正しい操作を行なってもエラーとなる場合は、保存をやり直して下さい。

保存をやり直してもエラーとなる場合は"D. 使用するテープについて(P.48)"を参照して下さい。

3 保存したデータの呼び出し



- ①テープ・レコーダーの出力レベルを調整した後、再生状態にします。
- 必ずデータの頭のパイロット信号の部分からスタートさせて下さい。
- パイロット信号が鳴っている間に、次の2つの操作を行ないます。

②保存したデータの呼び出しを行なう状態

③呼び出し

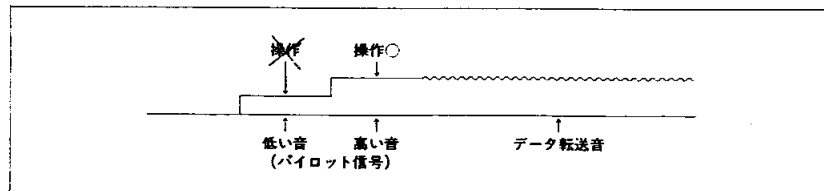
- テープからのデータ転送が始まると、ディスプレイにファイル番号が表示されます。
- 呼び出しが終るとメトロノーム音が鳴り、ディスプレイが元の状態に戻ります。
- ④テープ・レコーダーをストップさせます。

操作はパイロット信号が鳴っている間に行なって下さい。データの転送が始まってから、あるいはパイロット信号の鳴る前に行なうとエラーとなります。

再生レベルが低いとエラーになる場合があります。エラーとなった場合はレベルを上げて再び呼び出しを行なって下さい。

また、保存の時、低い音のパイロット信号から録音してある場合は、高い音に変わってから操作を行なって下さい。低い音の時に操作を行なうとエラーとなります(図参照)。

正しい操作を行なってもエラーとなる場合は、「D.使用するテープについて(P48)」を参照して下さい。



■ファイル番号の利用のしかた

操作③でファイル・ナンバーが表示されますが、この時、呼び出すデータかどうかを確認します。もし違うデータであれば、テープ

をストップさせ(呼び出しは解除されます)、再び新しいデータの頭出しをしてから呼び出しをやり直します。

D.使用するテープについて

エラーとなる原因の多くは、テープのドロップ・アウト(磁性体の異常により、録音が行なわれない部分)やヘッドの汚れなどによる音とびによるものです。

できるだけ新しいテープを使用し、ヘッド部も十分クリーニングしてご使用下さい。

■テープの保管等

●データを録音したテープは、巻き戻して保管して下さい。

●高温多湿、強い磁性体(スピーカー、アンプ等)のそばを避けて保管して下さい。

●大切な曲は予備をとっておくと、不慮の事故等でデータが消えてしまった場合でも安心です。

この場合、テープからテープへの直接のダビングは避け、一度MC-202に呼び出してから保存し直すことを推奨します。

E.パワー・セーブ機能について

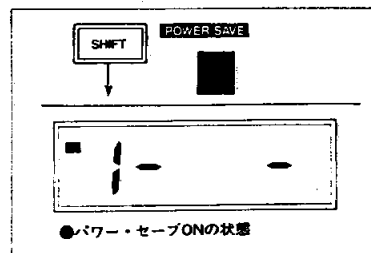
テープにメモリーを保存するまでの間は、電源を入れておく必要があります。この場合、パワー・セーブ機能をONにしておけばメモリー保持のために必要な電源以外を切ることができるので、乾電池の消耗を極力防止することができます。

図のように操作を行なうと、パワー・セーブがONにセットされます。この状態では機能は一切働きません。

元の状態(パワー・セーブOFF)に戻す時は、この操作をもう一度行ないます。

※パワー・セーブをONにしてあっても、電

源スイッチを切った時はメモリー(データ)は消えてしまいます。電源スイッチは必ず入れておいて下さい。



⑧応用的な使いかた

A.MC-202とシステム構成例

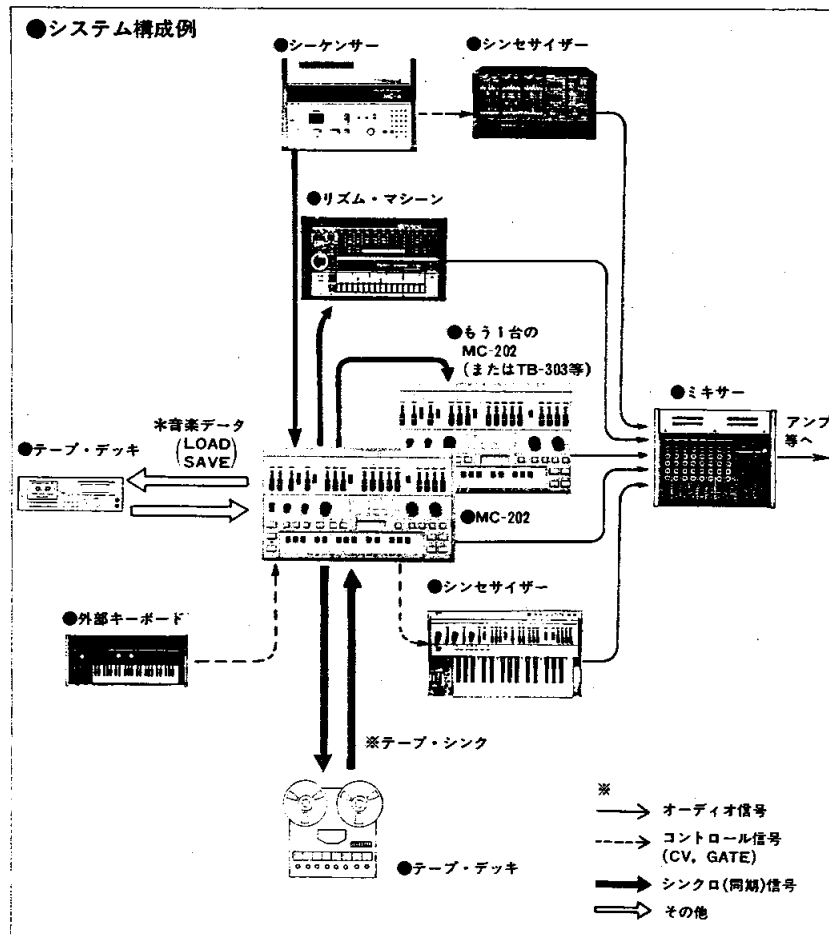
MC-202の各種ファンクション・ジャックを使えば、次のようなことが行なえます。

- 外部キーボードによるコントロール (MC-202+キーボード)
- 2チャンネル演奏 (MC-202+シンセサイザー)
- シーケンサー、リズム・マシンとの同期

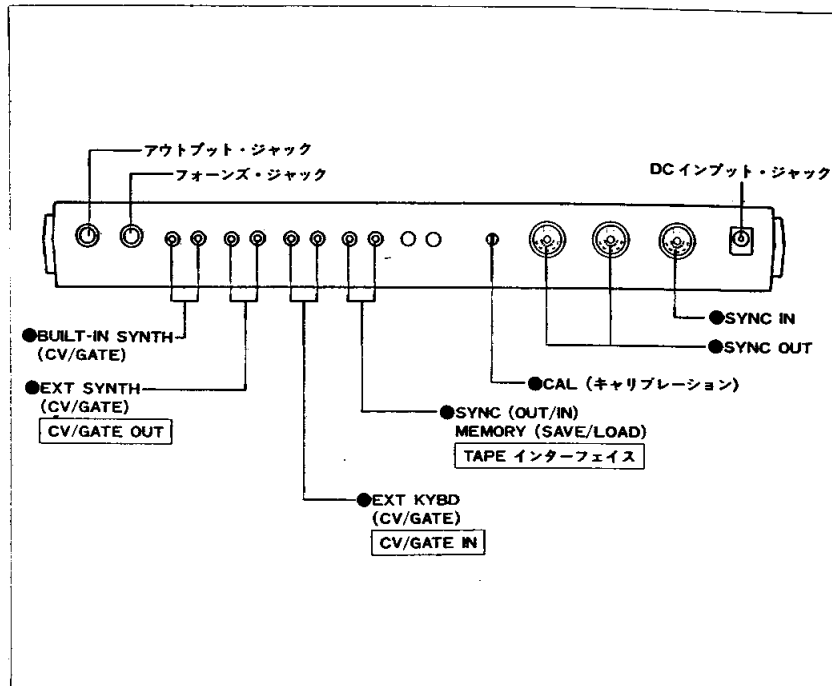
演奏

- 2台以上のMC-202による同期演奏
- テープ・シンク機能による多重録音
- etc.

図はMC-202を中心にシステムを構成した例です。



B.リア・パネル部の名称



C.シンセサイザーとの接続

1 外部キーボードによるコントロール

MC-202に外部キーボード(シンセサイザーもしくはキーボード・コントローラー)を接続すれば、その鍵盤を使って書き込みや演奏を行なうことができます。

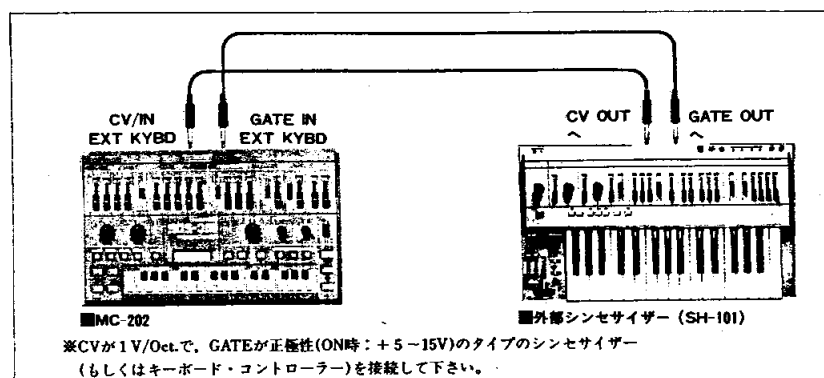
接続できるキーボードは、CVが1V/Oct.でGATEが正極性(ON時: +5~15V)のタイプのもの(SH-101, System 100M Dセッ

ト, M-184等)が使えます。

キーボードを接続した場合でも、パネル鍵盤も使うことができます(この時、音域を移動させることもできます)。

また、キーボードを接続してデータを書き込んだ場合、正しく書き込まれなかった時は次の「キャリブレーション」を行なって下さい。

■接続のしかた



■書き込み、演奏時の注意

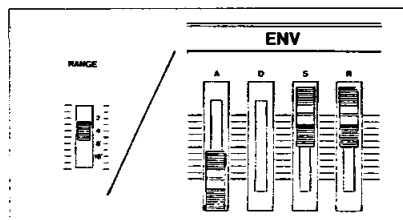
- 通常の音の高さで書き込む（あるいは演奏する）場合は、外部キーボードのトランスポーズをノーマル（8'）の位置にセットします！
- 鍵盤演奏による書き込みの時、最初の2小節のメトロノームが鳴っている間でも外部

キーボードを弾くと音は鳴りますが、この音は書き込まれません。

- MC-202がデータとして記憶できるCV電圧は0-5V（61鍵のキーボードに相当）までです（P59「音域表」参照）。

■キャリブレーションのしかた

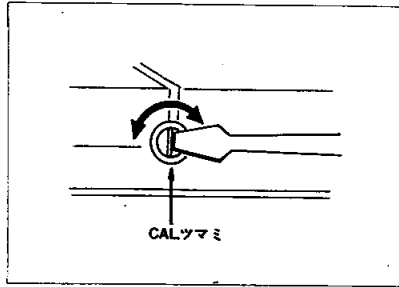
- 小型のドライバー（マイナス）を用意して下さい。



①接続が済んだら、外部キーボードのキーを押し、MC-202から音が出力されることを確認します。

②調整をしやすいするため、MC-202の各ツマミを図のようにセットします。

- この場合、外部キーボードのトランスポーズはノーマル（8'）の位置にしておきます。



③調整に入ります。

外部キーボードのキーを繰り返し押ししながら、その弾き始めから弾き終りまでの音の高さが一定になる位置にCALツマミをセットします。

■以上で調整は終了です。

D.外部機器との同期演奏

同期演奏をさせるには、市販のDINコード（5ピン）が必要です。

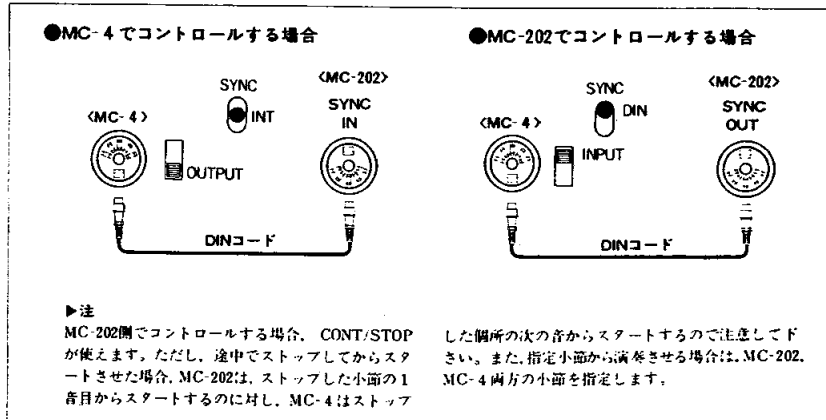
1 MC-202+シーケンサー

演奏のスタート/ストップ、テンポの調節等は、コントロール側の機器で行ないます。

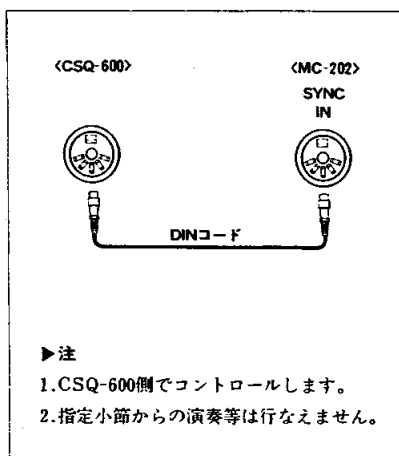
また、外部機器でMC-202をコントロール

する場合、MC-202に繰り返し演奏をさせる時は、MC-202のサイクル機能をONにして下さい。

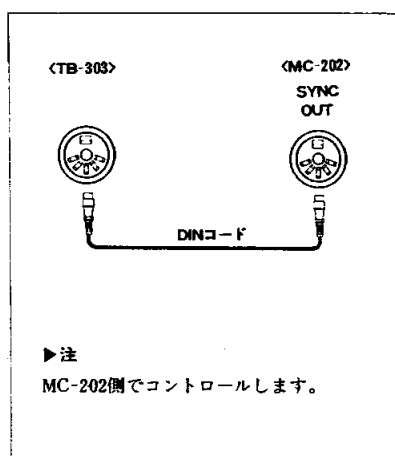
■MC-202+MC-4



■MC-202+CSQ-600



■MC-202+TB-303

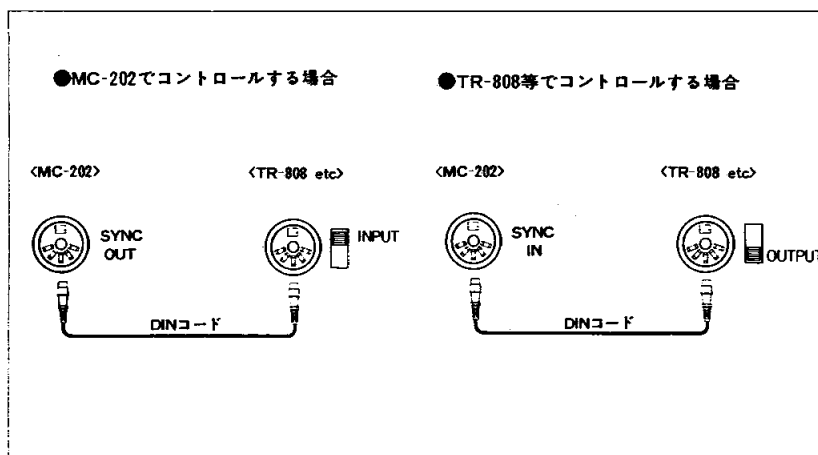


2 MC-202+リズム・マシーン

演奏のスタート/ストップ、テンポの調節等は、コントロール側の機器で行ないます。

リズム・マシーン側でコントロールする場合、繰り返し演奏をさせる時は、MC-202のサイクル機能をONにしてください。

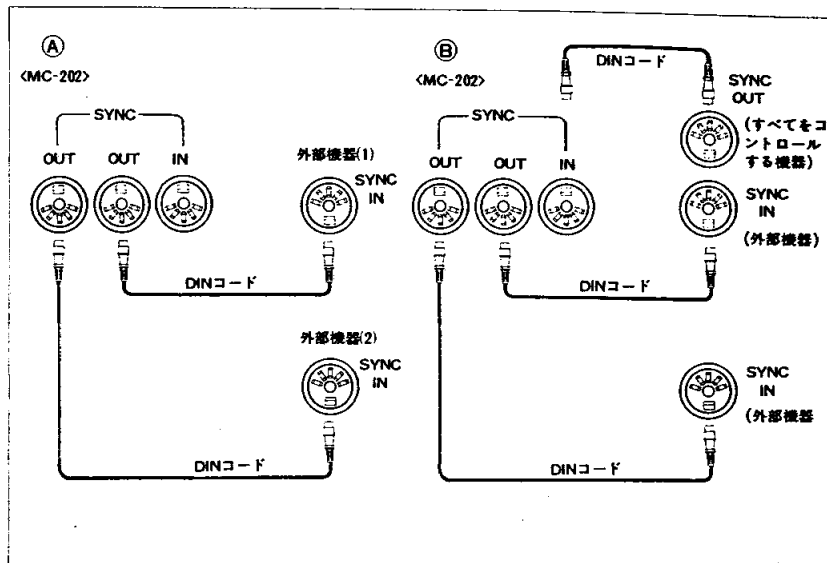
■MC-202+TR-808, 606, CR-8000



3 複数台のコントロール

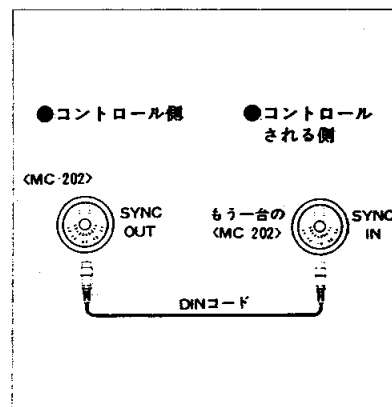
MC-202でコントロールを行なう場合は、2台までの機器をコントロールすることができます (A)。

また、他の機器でコントロールを行なう場合は、MC-202を含めて4台までの同期演奏が可能です (B)。



4 MC-202+MC-202

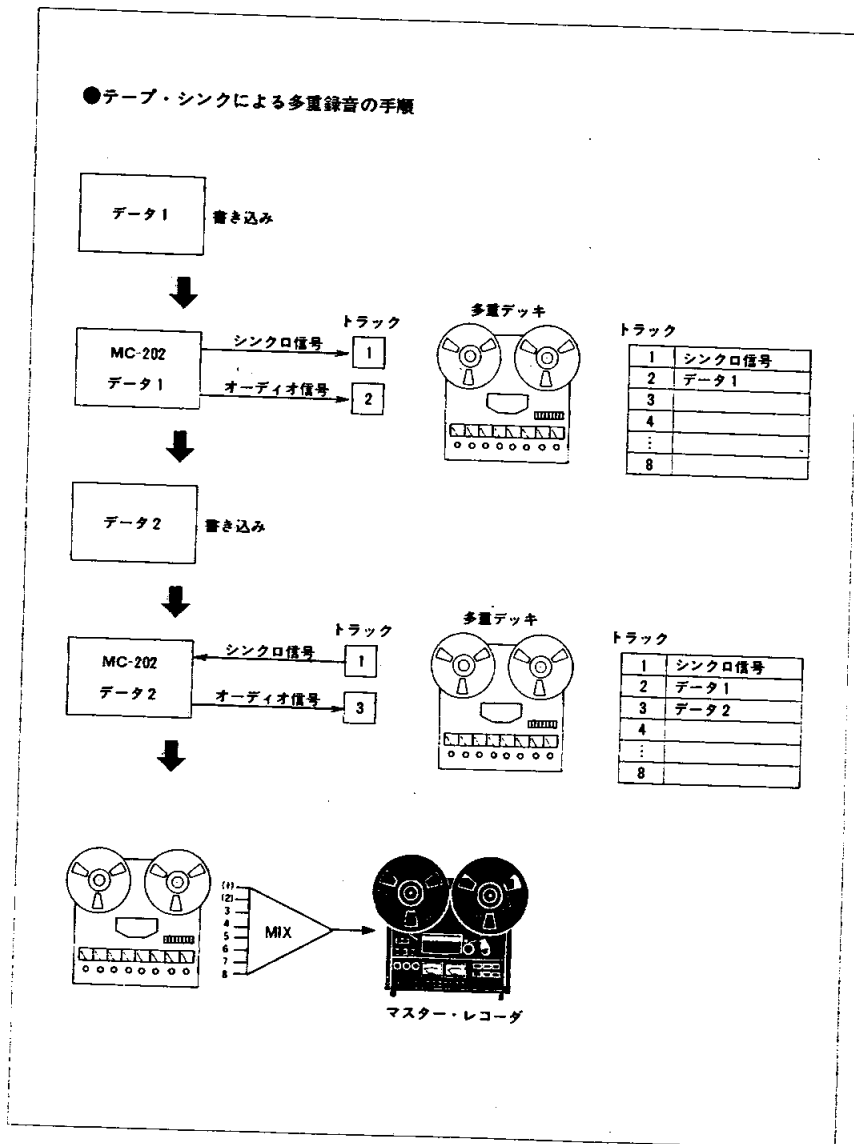
MC-202を複数台接続して同期演奏させることもできます。



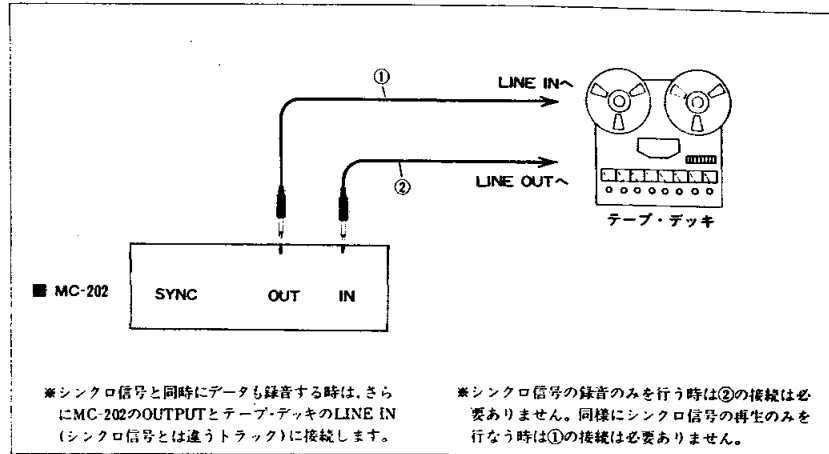
E. テープ・シンク (多重録音)

テープ・シンク用のシンクロ信号をMC-202の演奏とともにテープ・デッキに録音すれば、後でその信号に同期させて、新たな演奏を重

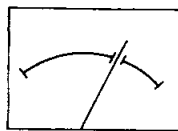
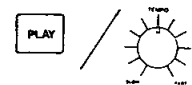
ねていく (多重録音する) ことができます。手順と考え方は図のとおりです。



■接続のしかた



■シンクロ信号の録音のしかた



①プレイ・モードにセットし、あらかじめ演奏させながらテンポを設定します。

②テンポの設定が済んだらストップさせます。

③テープ・レコーダーを録音待機状態にセットし、MC-202から出力されるパイロット信号（ビーという音）の録音レベルを-10~-3 VU程度にセットします*

*チャンネル間クロストーク（隣りの録音トラックへの影響）の点から、MC-202が動作する最小のレベルにセットするとよい。

④テープ・レコーダーを録音状態にし、数秒（5~10秒）後、MC-202をスタートさせます。

●演奏開始と共にハイロット信号がシンクロ信号（ゲーという音）に変わります。

⑤演奏途中でテンポを変えたい時（リタルダント等）は、テンポ・ツマミで調節します。



⑥MC-202の演奏が終了したら、テープ・レコーダーをストップさせます。

■以上で録音は終了です。

■シンクロ信号による演奏（多重録音）

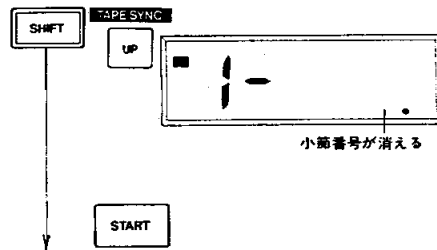


①演奏できる状態



②テープ・レコーダーの出力レベルを調節した後、再生状態にします。
●必ずシンクロ信号の前のパイロット信号の部分からスタートさせて下さい。

●パイロット信号が鳴っている間に、次の2つの操作を行ないます。



③シンクロ演奏できる状態

④演奏待ちの状態

●シンクロ信号が読み込まれると同時に演奏がスタートします。



⑤MC-202の演奏が終了したら、テープ・レコーダーをストップさせます。

■以上でシンクロ演奏は終了です。

テープからの信号が途切れると、演奏はストップします。サイクル機能をONにしてある時は、シンクロ信号が入力されている間、演奏が繰り返されます。

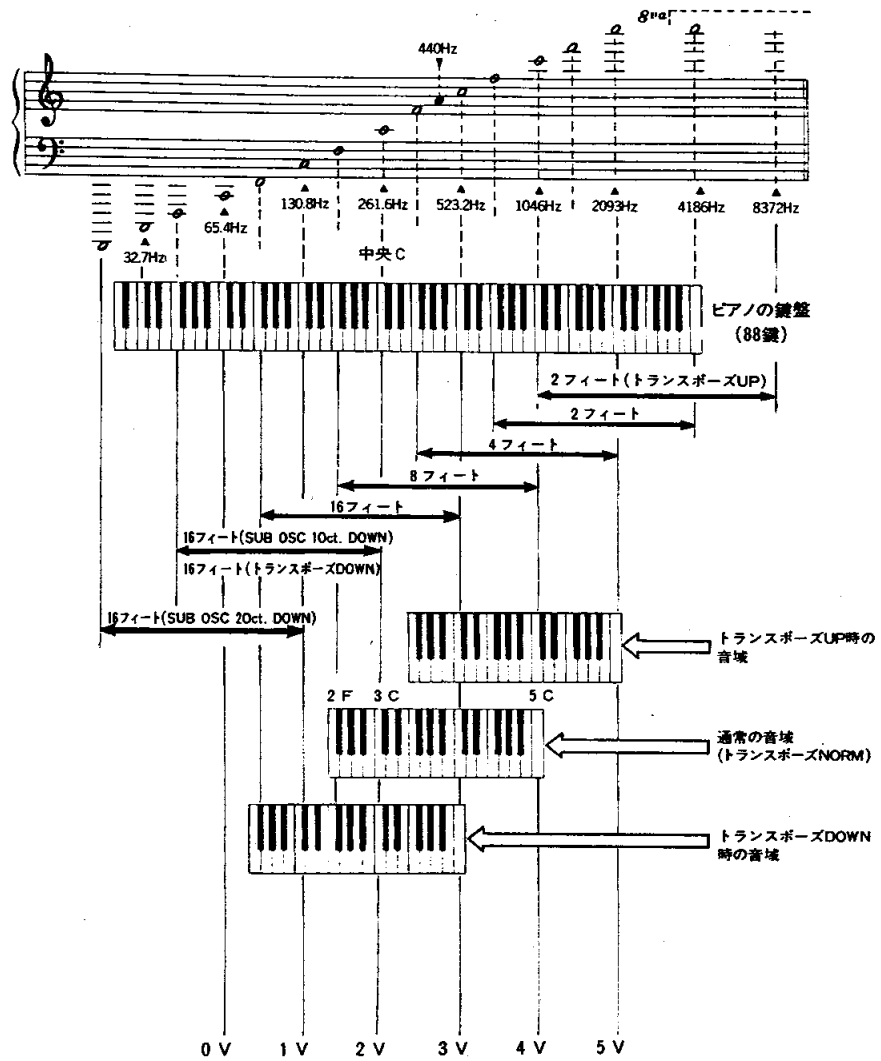
シンクロ信号の途中から演奏をスタートさせることもできます。この場合は、任意の個

所で操作③、④を行いません。

シンクロ信号で演奏を行なう時は、リア・パネルのSYNC IN ジャックには何も接続しないで下さい (SYNC OUT ジャックに機器を接続することはできます。この場合は、同期演奏が可能です)。

メモ

音域表



故障とお考えになる前に

正常に動作しない場合は、次の表に従って処
置して下さい。主に使いかたの間違いによる
症状を示しましたが、これらの処置をしても

直らない場合、または表以外の症状の場合は、
各サービス・ステーションにご相談下さい。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチを入れてもディスプレイに表示が出ず、動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ACアダプターの接続不完全。 ・電池が切れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく接続する。 ・電池を交換する。
動作するが、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・本体(及びアンプ)のボリュームが下っている。 ・アンプとアウトプットの接続不完全。 ・コード不良。 ・シンセサイザー(セクション)のセッティングが悪い。 ・休符ばかりのデータが書き込まれている。 ・データを書き込んでいないCHを指定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボリュームを適度に上げる。 ・完全に差し込む。 ・コードを取り替える。 ・シンセサイザーを働かせる(P11)に従ってセッティングし直す。 ・ステップ・タイム、ゲート・タイムの書き直し(P31)に従って書き込み直す。 ・CHを指定し直す。
自動演奏できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・データが書き込まれていない。 ・モードを間違えている。 ・パワー・セーブがONになっている。 ・SYNC INジャックにDINコードが接続されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データを書き込む。 ・プレイ・モードにセットする。 ・OFFにする。 ・DINコードをはずす。
正しく演奏されない。	<ul style="list-style-type: none"> ・データを間違えた時の書き直し(P30)をご覧ください。 	
書き込みができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・モードを間違えている。 ・データがメモリーのリミットまで書き込まれている。 ・パワー・セーブがONになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エディット・モードにセットする。 ・これ以上書き込みはできません。 ・OFFにする。
同期演奏ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・データが正しく書き込まれていない。 ・DINコードの接続不完全。 ・SYNCジャックのINとIN(またはOUTとOUT)が接続されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1小節のトータル・ステップ数を間違えないようにして書き込み直します。 ・完全に差し込む。 ・INとOUTを接続する。

主な仕様

■MC-202 ■マイクロ・コンポーザー

マイクロ・コンポーザー部

- メモリ容量
約2,600音
- 出力
 - 外部CV出力・パネル鍵盤使用時
417mV～5V, 44ステップ
 - 外部鍵盤使用時
0V～5V, 49ステップ
(83.3mV/ステップ) : 1
 - 外部GATE出力(OFF: 0V, ON: 12V)
 - 内部CV出力 : 1
 - 内部GATE出力 : 1
- 入力(鍵盤入力)
 - CV IN(0V～5V) : 1
 - GATE IN(+3V以上でON) : 1
 - キャリブレーション・ツマミ : 1
- テープ・インターフェイス
 - メモリー・セーブ(テープ・シンク・アウト)
: 1
 - メモリー・ロード(テープ・シンク・イン)
: 1
- DINシンクロ
 - DINコネクタ IN : 1
 - OUT : 2
- テンポ
 - テンポ・ツマミ(♩=40～300) : 1
- 入力方法
 - 数字キー(0～9)
 - STEPキー(♩, ♪, ♫, ♬, ♮, ♯, ♭, ♮, ♯, ♭)
 - GATEキー(0 REST, 1 STACC, 2 NON LEG, 3 LEGATO, 4 TIE)
 - パネル鍵盤
 - 外部キーボード

- キー
 - シフト・キー : 1
 - トランスポーズ(UP, NORM, DOWN)
キー : 3
 - チャンネル・キー : 1
 - プレイ・モード・キー : 1
 - エディット・モード・キー : 1
 - テンポ・キー : 1
 - ステップ(FWD, BACK)キー : 2
 - メジャー(FWD, BACK)キー : 2
 - バー・キー : 1
 - エンター・キー : 1
 - タップ・キー : 2
 - コンティニュー/ストップ・キー : 1
 - スタート・キー : 1
 - パネル鍵盤 : 32
- ディスプレイ等
 - 液晶ディスプレイ : 1
 - スタート・インジケータ : 1
- モード
 - プレイ・モード
 - エディット・モード(PITCH/STEP/GATE)

シンセサイザー部

- パネル鍵盤
32Key, Fスケール
- VCO
 - レンジ(16', 8', 4', 2')
 - パルス・ウィズ・モジュレーション(50%～Min)
 - PWMモード・スイッチ(ENV/MAN/LFO)
 - モジュレーション・デプス
 - チューン(±100セント)

●ソース・ミキサー

□ レベル
△ レベル
サブ・オシレーター・レベル
サブ・オシレーター・ウェーブフォーム
(1 Oct Down □, 2 Oct Down □, 2 Oct Down △)

●VCF

カットオフ・フリクエンシー(10Hz~20kHz)
レゾナンス(0~Self Oscillation)
ENVデブス
モジュレーション・デブス
ヤー・フォロー(0~100%)

●VCA

コントロール信号選択スイッチ(ENV /
/GATE □)

●ENV

アタック・タイム(2ms~1.5s)
ディケイ・タイム(2ms~5s)
サステイン・レベル(0~100%)
リリース・タイム(2ms~5s)

●LFO

LFOレイト(0.1Hz~30Hz)
LFOレイト・インジケーター
ディレイ(0~1s)

●ボルタメント

ボルタメント・タイム(0~2s)

●アクセント

●ボリューム

●接続ジャック

アウトプット・ジャック(0dBm max)
ヘッドホン・ジャック(ステレオ8Ω~

150Ω)

DCインプット・ジャック(9V~12V
専用アダプターPSA-100)

●電源スイッチ

●電源

DC9V(UM-2×6本またはPSA-100)

●消費電力

800mW

●外形寸法

343(W)×55(H)×204(D)mm

●重量

1.35kg(乾電池を含む)

●付属品

2.5m接続コードLP-25(PJ-1) ×1

サンプル・テープ(デモンストレー
ション用) ×1

単2乾電池(BR-2) ×6

別冊「MC-202のシンセサイザー」 ×1

オプション

MC-202 '83. MAR. B3

<p>●ヘッドホン RH-10 ¥4,000</p>	<p>●ACアダプター PSA-100 ¥2,000</p>
